

早稲田大学大学院総合研究機構  
社会的養育研究所

フォスタリング機関の評価のあり方に関する  
調査研究 報告書

2023年3月



早稲田大学



## 目次

第1章 調査研究の概要 .....	1
1. 背景・目的 .....	1
2. 実施内容 .....	1
(1) 検討委員会の開催 .....	1
(2) 評価の試行調査 .....	2
(3) 報告書の作成 .....	2
3. 検討委員会 .....	2
(1) 検討委員（50音順 *敬称略） .....	2
(2) 調査実施者 .....	2
(3) 想定スケジュール .....	2
第2章 試行調査の概要 .....	3
1. 評価調査者 .....	3
2. 実施方法 .....	3
(1) 自己評価 .....	3
(2) 子ども・里親アンケート調査 .....	3
(3) 子ども・里親インタビュー調査 .....	3
(4) 受審機関・関係機関インタビュー調査 .....	3
(5) 受審機関の活動への参加・見学 .....	3
(6) 資料収集 .....	3
3. 実施結果 .....	4
第3章 今後の検討に向けて .....	5
(1) 評価の対象について .....	5
(2) 評価ガイドラインの定期的な見直し .....	5
(3) 評価機関・評価調査者の養成と質の向上 .....	5
(4) 第三者評価受審費用の補助 .....	6
(5) 今後の社会的養育における評価機関のあり方について .....	7
第4章 フォスタリング機関の第三者評価指針（案） .....	9
I. 評価の基本的な考え方 .....	- 1 -
1. 検討の経緯 .....	- 1 -
2. 評価の目的 .....	- 1 -

3. 評価の対象機関 .....	- 1 -
4. 評価の基本的原則 .....	- 1 -
5. 評価の焦点 .....	- 2 -
6. 評価基準の主な構成 .....	- 2 -
7. 判定基準 .....	- 3 -
8. 評価調査者の体制 .....	- 3 -
9. 評価結果の活用 .....	- 3 -
(1) 評価結果の活用 .....	- 3 -
(2) 子ども向けレポート .....	- 3 -
II. 評価実施の流れ .....	- 4 -
1. 全体の進め方 .....	- 4 -
2. 各段階のプロセス詳細 .....	- 4 -
III. 評価基準(案) .....	- 9 -
1. 評価基準(案)一覧 .....	- 9 -
2. 評価基準(案)詳細 .....	- 13 -
3. 里親・子ども向けアンケート調査票(案) .....	- 59 -
IV. 参考資料 .....	- 69 -
1. 自己評価入力シート .....	- 69 -
2. 子どもへのインタビュー実施時の説明資料(例) .....	- 77 -
3. 子ども向けレポートフォーマット(例) .....	- 78 -
<b>第5章 参考文献 .....</b>	<b>11</b>

# 第 1 章 調査研究の概要

## 1. 背景・目的

2016年に改正された児童福祉法では、子どもが権利の主体であることが位置付けられるとともに、子どもの家庭養育優先原則が明確化された。また、都道府県が行うべき里親に関する業務（フォスタリング業務）が具体的に位置付けられた。2017年8月には、「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」において、「新しい社会的養育ビジョン」が取りまとめられ、2018年度から「概ね5年以内には社会的養護に係わる全ての機関の評価を行う専門的評価機構を創設」することが提言され、フォスタリング機関も評価すべき対象とされた。

2022年6月には児童福祉法が改正され、2024年度から里親支援センターが児童福祉施設として位置づけられることとなり、それに伴って、第三者評価が実施されることが示されている<sup>1</sup>。

フォスタリング事業の実施箇所数は、全国で275箇所（うち、自治体が146箇所、民間委託が129箇所）<sup>2</sup>となっており、里親委託率の向上に向けた取組みの拡充に伴い、今後ますます体制整備が進むことが見込まれる。

当研究所では、2020年度に、英国の評価機関オフステッドに関する調査及び日本の社会的養育にかかわる評価制度等の調査を行い、その主な特徴や提言を取りまとめた。2021年度は、前年度の報告書を踏まえて、子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質を向上させていくために、評価項目（試案）の策定を行った。2022年度は、2021年度に策定した評価項目（試案）をもとに試行調査をすることを通じて、より良い評価のあり方の検討を行うことを目的とした。

## 2. 実施内容

### (1) 検討委員会の開催

フォスタリング機関の評価のあり方を検討するため、有識者で構成する検討委員会を5回開催した。検討委員会での意見を踏まえて、評価の試行実施及び評価方法の検討を行った。

<sup>1</sup> 「令和3年度 社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会報告書」（2022年2月）では、里親支援センターが児童福祉施設に位置づけられることに伴って、「第三者評価が確実に成されることとする」と明記された。

<sup>2</sup> 厚生労働省による令和2年度の「里親養育包括支援事業」（フォスタリング事業）の国庫補助を受けて実施された事業の実施状況をもとに集計した件数（延べ）。補助金の申請がない場合にはフォスタリング事業を実施しているか不明。

## (2) 評価の試行調査

全国のフォスタリング機関を対象に、試行調査の協力先を公募し、民間フォスタリング機関（1箇所）に対して、評価の試行調査を実施した。試行実施の結果を踏まえて、評価方法の見直しに向けた検討を行った。

## (3) 報告書の作成

調査研究の検討結果をとりまとめ、報告書を作成した。報告書には調査研究の実施概要及び試行調査の概要、今後の検に向けて、評価指針（案）等を盛り込んだ。

## 3. 検討委員会

### (1) 検討委員（50音順 \*敬称略）

- ・河野 洋子 大分県こども・女性相談支援センター 所長
- ・長田 淳子 二葉乳児院フォスタリングチーム統括責任者・副施設長
- ・中村 みどり Children's Views & Voices 副代表
- ・藤林 武史 西日本こども研修センターあかし センター長
- ・三輪 清子 明治学院大学 准教授
- ・山口 敬子 京都府立大学 准教授
- ・渡邊 守 特定非営利活動法人キアアセット 代表

### (2) 調査実施者

- ・上鹿渡 和宏 早稲田大学社会的養育研究所 所長
  - ・西郷 民紗 早稲田大学社会的養育研究所 客員次席研究員
- 【調査実施協力】 特定非営利活動法人きづく 鈴木 里佳子・森 郁子

### (3) 実施スケジュール

検討委員会	時期	内容
第1回検討委員会	2022年6月	・調査研究の実施概要案の検討 ・評価の実査体制の検討
第2回検討委員会	2022年7月	・評価対象機関及び評価者の検討 ・試行調査に向けた事前協議
第3回検討委員会	2022年11月	・試行調査の準備・検討
第4回検討委員会	2022年12月	・試行調査を踏まえた評価の検討 ・評価の課題抽出
第5回検討委員会	2023年2月	・報告書案の検討

## 第2章 試行調査の概要

2021年度に策定した評価項目(案)を改善するために、民間フォスタリング機関(1ヶ所)及び設置自治体にご協力いただき、試行調査を実施した。

### 1. 評価調査者

評価調査チームは、本調査研究の有識者検討委員から構成した。

### 2. 実施方法

早稲田大学社会的養育研究所(2022)「フォスタリング機関の評価のあり方に関する調査研究報告書」評価項目(試案)をもとに、下記の方法で調査を実施した。

#### (1) 自己評価

受審機関が自己評価を実施し、5部構成の全40項目についてS・A・B・Cの4段階での判定と各部について機関としてのコメントを提出した。加えて、各職員が各部についての個別の判定とコメントをオンラインフォームで提出した。

#### (2) 子ども・里親アンケート調査

里親家庭で生活している小学2年生以上の子どもと、すべての登録里親(未委託里親等を含む)を対象にアンケート調査を実施した。機関を通じて、対象家庭にアンケート調査票を郵送し、紙またオンラインのいずれか一方に、任意で回答いただいた。

#### (3) 子ども・里親インタビュー調査

里親家庭での生活経験のある中高生以上の子ども(元里子も含む)と、里親を対象にインタビュー調査を実施した。子どもには受審機関が行うイベント実施後に、任意で協力いただける方にグループインタビュー形式で実施し、里親は訪問調査時に任意で協力いただける方に個別インタビューを行った。

#### (4) 受審機関・関係機関インタビュー調査

受審機関の代表者及び職員、関係機関の担当者を対象にインタビュー調査を実施した。

#### (5) 受審機関の活動への参加・見学

受審機関が実施する里親家庭向けの活動に参加した。子ども・里親の様子を見学し、サロンにも同席してお話を伺った。

#### (6) 資料収集

受審機関が行う事業や取組み、自治体の状況が把握できる各種資料を提出いただいた。

以上の調査結果を踏まえて、評価調査チームで評価結果を検討し、すり合わせを行った。なお、4段階の判定におけるSは、「特に<sup>3</sup>優れた取組みが実施されている」、Aは、「適切に実施されている」、Bは、「やや適切さにかける」、Cは、「適切ではない、または実施されていない」と判断された場合とした。

(参考) 実施決定からフィードバック・報告までのスケジュール概要

各段階	7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w	1w	2w	3w	4w				
各段階	STEP1				STEP2				STEP3				STEP4				STEP5				STEP6															
評価調査チーム	評価の申込み・打合せ及びヒアリング				実施決定・機密保持に関する覚書締結				自己評価の実施依頼 資料の事前提出依頼 里親子ども向け案内作成				アンケート回収・集計 インタビュー対象者検討				訪問調査				結果の取りまとめ				総評の作成				フィードバック・報告							
受審機関					資料の事前提出 里親子ども向け案内発送				自己評価の実施・提出				アンケート回収 里親・子どもに案内送付																							
里親									調査票の回答・提出 可否回答																											
子ども																																				
自治体・児童相談所	説明・調整				結																															

※試行調査のため、各段階で必要に応じて検討委員会を行った。なお、一部の日程は変更が生じている。

### 3. 実施結果

第三者評価報告書を作成し、受審機関と設置自治体にフィードバックを行った。また、試行調査の結果を踏まえて、評価項目及び評価方法等を見直した。

なお、第三者評価結果の公表は、試行段階であるため、受審機関の判断によるものとした。

<sup>3</sup> 2021年度報告書では「優れた取組みが実施されている」としていたが改訂した。



## 第3章 今後の検討に向けて

本調査を踏まえて、今後の検討に向けて必要だと考えられることを以下に整理する。

### (1) 評価の対象について

フォスタリング業務は都道府県（児童相談所）の本来業務であり、児童相談所自らが、フォスタリング機関となる場合（児童相談所の一貫した責任体制の下に、フォスタリング業務の一部を民間に委託する場合を含む。）と、民間フォスタリング機関を活用する場合が考えられる。

本調査研究では、フォスタリング業務を包括的に行う民間機関を対象として検討を行ったが、支援を受ける機関や地域を問わず支援の質を担保するためには、児童相談所がフォスタリング機関となる場合も、本評価基準が活用されることが望まれる。

### (2) 評価ガイドラインの定期的な見直し

より適切な評価を行うためには、評価基準や評価方法等について、概ね3年毎に見直しが必要である。特に機関の立ち上げや活動の初期段階は、助言・支援の機能がより有効であると考えられる。また、評価基準は、関係法令の改正等を踏まえて見直す必要があり、評価方法の適正化のための改善は継続的に行われるべきである。

### (3) 評価機関・評価調査者の養成と質の向上

フォスタリング機関の評価の実施にあたっては、児童福祉に関する専門性に加えて、当該業務の特質を十分に認識し、子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質の向上に意欲を持つ評価機関であることが必要である。加えて、定期的に評価ガイドラインの改定が行われることを踏まえれば、直近の改定内容等を十分に理解した評価調査者が適切な評価を実施することが求められる。評価を通じて、支援を改善するための方向性や具体的な道筋を明確にすることは、受審機関にとって、評価を受ける意義を実感することにつながる。そのためには、評価調査者を養成するとともに、評価の質の向上を図るための継続的な評価者研修が実施されることが期待される。

なお、社会的養護関係施設の第三者評価においては、評価機関数の増加により評価経験が蓄積できなくなることを避けるために、全国推進組織による第三者評価機関の認証が行われている。認証の更新時には「3年間に10か所以上の社会的養護関係施設の評価を行う」とともに、「直近の評価基準改正後（3か年度毎）に全国推進組織（本会）が行う研修を受講し修了した評価調査者が在籍」していることを要件とすることで評価の質の向上を図っている。また、評価調査者については、直近の「養成研修」又は、「継続研修」を修了することが要件とされ、研修修了者（評価調査者）についても3箇年度ごとの有効期間が定められている。

(参考) 社会的養護施設第三者評価 評価機関・評価者について

○社会的養護関係施設第三者評価機関の認証について

- 社会的養護関係施設の第三者評価を行う評価機関は、「社会的養護関係施設第三者評価機関」の認証を受けた機関でなければなりません。なお、当該認証の有効期間は、認証を受けた日から3年間(3か年度の満了日)とします。また、社会的養護関係施設の特質と動向を十分知り、社会的養護関係施設の評価を多数経験し、社会的養護関係施設の質の向上に資する取組に意欲を持つ評価機関であることが必要です。
- 評価機関数が多くなり評価経験が蓄積できなくなることを避ける必要があり、評価機関はブロックなどの広域あるいは全国の単位で活動することが望ましいと考えられます。このため、既存の第三者評価機関の認証とは別に、社会的養護関係施設の評価機関の認証を全国共通で行っています。

全国共通の認証

社会的養護関係施設第三者評価機関の認証は、次の要件により、原則として全国推進組織(本会)が行い、この認証は全国において有効とします。

- 都道府県推進組織の認証を受けている第三者評価機関にあっては、全国推進組織(本会)が実施する社会的養護関係施設評価調査者養成研修等を受講し、修了した評価調査者が在籍していること。なお、認証の更新時には、3年間に10か所以上の社会的養護関係施設の評価を行うとともに、直近の評価基準改正後(3か年度毎)に全国推進組織(本会)が行う研修を受講し修了した評価調査者が在籍し、適切な評価を行っていることを要件とします。
- ①以外の評価機関にあっては、第三者評価指針通知の「福祉サービス第三者評価機関認証ガイドライン」に掲げる要件を満たすとともに、①の要件を満たしていること。

社会的養護関係施設評価調査者の有効期間

本会が実施する社会的養護関係施設第三者事業「評価調査者」養成研修会/継続研修会修了者には、有効期間が設けられています。

- 厚生労働省通知により、「社会的養護関係施設第三者評価機関が社会的養護関係施設の評価を行う場合には、1件の第三者評価に2名以上の評価調査者が一貫して担当するものとし、いずれの評価調査者も、直近の社会的養護関係施設評価調査者養成研修、あるいは継続研修を受講し、修了していることが望ましいが、少なくとも1名は、これを受講し、修了しているものでなければならない。なお、社会的養護施設評価調査者養成研修を受講していない評価調査者についても、第三者評価指針通知の別添1「都道府県推進組織に関するガイドライン」に基づいて都道府県推進組織が行う評価調査者養成研修を受講し、修了した者でなければならない。」とされています。
- 社会的養護関係施設第三者評価事業評価調査者の有効期間等についての考え方は、以下のとおりです。

社会的養護関係施設第三者評価事業評価調査者の有効期間等について

(引用元：全国社会福祉協議会ホームページ、下線引用者)

(4) 第三者評価受審費用の補助

今後、里親支援センターが児童福祉施設として位置付けられることに伴って、業務の質を改善するために第三者評価が必須となることを踏まえれば、その受審費用は、公的に補助されることが望まれる。

里親家庭は、各家庭が様々な地域で一般家庭と同様の日常生活を送っていることから、子どもや里親への各種調査が、可能な限り回答者の負担とならない方法で実施

されることが求められる。具体的にはインタビュー調査での話しやすい場所の確保、移動負担の軽減や交通費の支給、また、対象者に合わせた紙・WEBによるアンケート回収などを組み合わせること等が想定される。より多くの子ども・里親が協力しやすい環境を整えるための経費は、十分に考慮される必要がある。

#### (5) 今後の社会的養育における評価機関のあり方について

- 将来的には、子どもの住んでいる地域や支援を受ける機関にかかわらず、子どもの権利を守り、その意思を尊重することができるよう、社会的養育における評価機関の一元化やその独立性についても検討されるべきである。
- その際、行政による指導監査と、最低限の基準を満たした上で行われる第三者評価のすみ分けについても議論されることが望まれる。法令に明らかに違反している場合だけでなく、子どもの福祉の観点から重大な懸念がある場合や不適切なケアが行われている恐れがある場合も、子どもへの影響を十分考慮した上で、調査を行い、どのように是正すべきかを検討する必要がある。
- 受審機関の自主性・自立性を尊重することは、評価とその活用のあり方の基本として重要である。しかしながら、問題の内容や程度によっては、実際に適切な対応が行われたかを確認できるようにすることや、それが行われない場合は必要な対応を課すことができる権限のあり方の検討も求められる。
- 現在の社会的養育全体の評価制度は、子どもの権利擁護や支援機関の業務の質の向上を図るために実施することが求められている一方で、それが準拠する法令によって評価の位置づけやその活用のあり方にばらつきがある。現行の制度が子どもの権利擁護と支援機関の質の向上に寄与するために、十分な仕組みとなっているか等、子どもの最善の利益を保障する観点から評価制度の検討が継続的に行われることが必要である。
- 福祉サービスの第三者評価が権利擁護システムの一つとして位置付けられてきたことを踏まえれば、支援の成果が短期間で量的に測れることばかりではないことを十分に考慮した上で、評価を通じて業務の質の改善につながったか、利用者の目線でサービスの改善に寄与しているかどうかを重視すべきである。
- その上で、支援機関に共有の課題が見出される場合には、個々の機関の問題に矮小化せず、共通課題を明らかにして制度の見直しにつなげることも重要であることから、政策の見直し過程での活用も期待される。



## 第4章 フォスタリング機関の第三者評価指針（案）

本調査研究の結果を踏まえて、フォスタリング機関の第三者評価指針（案）を策定した。本指針（案）については、里親支援センターの評価指針の素案として活用されることが望まれるが、今後検討される里親支援センターの運営指針等の内容に応じて、必要な改定が行われるべきものであることに留意が必要である。



# フォスタリング機関の第三者評価指針（案）

2023年3月

早稲田大学 社会的養育研究所  
フォスタリング機関の評価のあり方に関する調査研究検討委員会





# 1. 評価の基本的な考え方

## 1. 検討の経緯

- 2016年に改正された児童福祉法では、子どもが権利の主体であることが位置付けられるとともに、子どもの家庭養育優先原則が明確化され、都道府県が行うべき里親に関する業務（フォスタリング業務）が具体的に位置付けられました。
- 2017年8月には、「新たな社会的養育の在り方に関する検討会」において、「新しい社会的養育ビジョン」が取りまとめられ、2018年度から「概ね5年以内には社会的養護に係わる全ての機関の評価を行う専門的評価機構を創設」することが提言され、フォスタリング機関も評価すべき対象とされました。
- 2022年の児童福祉法改正では、2024年度から里親支援センターが児童福祉施設として位置づけられることとされ、それに伴って、第三者評価が実施されることが示されています<sup>4</sup>。
- フォスタリング事業の実施箇所数は、令和2年度には全国で275箇所（うち、自治体が146箇所、民間委託が129箇所）<sup>5</sup>となっており、里親委託率の向上に向けた取組みの拡充に伴い、今後ますます体制整備が進むことが見込まれています。
- 子どもの最善の利益の実現のために、評価を活用することを通じて、里親養育のもとで育つ子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質の向上させることが必要です。第三者評価に限らず、自己評価を行う際も本指針（案）の評価基準の活用が推奨されます。

## 2. 評価の目的

子どもの最善の利益の実現のために、里親養育のもとで育つ子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質を向上させることを目的とします。

## 3. 評価の対象機関

フォスタリング業務は都道府県（児童相談所）の本来業務であり、児童相談所自らが、フォスタリング機関となる場合（児童相談所の一貫した責任体制の下に、フォスタリング業務の一部を民間に委託する場合を含む。）と、民間フォスタリング機関を活用する場合があります。

ここでは、民間フォスタリング機関を対象として検討しましたが、児童相談所がフォスタリング機関となる場合も、本評価指針（案）を参考に評価を行うことが望まれます。

## 4. 評価の基本的原則

評価は、「子どもを中心として、サービスを捉えること」を基本的原則とします。

評価を行う際、子ども、里親、フォスタリング機関、児童相談所・自治体等さまざまな関係者の立場がありますが、評価が大人の視点に立ちやすいことや、支援者とサービス利用者の間

<sup>4</sup> 「令和3年度 社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会報告書」（2022年2月）では、里親支援センターが児童福祉施設に位置づけられることに伴って、「第三者評価が確実に成されることとする」と明記された。

<sup>5</sup> 厚生労働省による令和2年度の「里親養育包括支援事業」（フォスタリング事業）の国庫補助を受けて実施された事業の実施状況をもとに集計した件数（延べ）。補助金の申請がない場合にはフォスタリング事業を実施しているか不明。

に認識のズレが生じている可能性があることから、実際にサービスを受けている子どもを中心として、これまで以上に子どもの視点を重視してサービスの質を捉える必要があります。

「子どもたちの声は、まさにサービスの品質を評価する最もの確な指標」（津崎, 1990）であり、子どもの声を養育と支援の質の向上につなげることが重要です。

## 5. 評価の焦点

評価は、「子どもの健やかな育ちに対する影響を評価すること」に焦点を当てます。

児童福祉法第 2 条は、児童の保護者は、児童を心身ともに健やかに育成することについて第一義的責任を負い、国及び地方公共団体は、「児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う」としています。保護者による養育が困難な場合は、国及び地方公共団体が、社会的養護を通じて、保護者に代わって児童を心身ともに健やかに養育する責任を有するものと考えられます<sup>6</sup>。

フォスタリング機関の評価においては、実務上の手続きより、里親養育のもとで育つ子どもの健やかな育ちに対する養育と支援の影響に焦点を当てることを優先します。子どもたちが、健やかな子ども期を過ごしているか、日常的にどのような生活を送り、どんな遊びの経験をしているか等を重視します。ウェルビーイング<sup>7</sup>は、主観的・客観的に評価されるものであり、子どもの主観の評価や生活状況は、日常的な養育と支援の質を示すと考えられます。

## 6. 評価基準の主な構成

評価基準の主な構成は、次の通りです。現状、フォスタリング業務の実施体制や役割分担・業務内容は、自治体ごとに異なっているため、必ずしもすべてのフォスタリング機関に共通して適用できる枠組みではありませんが、「フォスタリング機関（里親養育包括支援機関）及びその業務に関するガイドライン」等を参考に必要な項目を整理しました。

主な構成
第Ⅰ部. フォスタリング機関の運営・体制 リーダーシップ、人材の確保・育成、情報管理、法令遵守等
第Ⅱ部. 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ 支援の連続性、協働関係、協働のプロセス、協働の資源等
第Ⅲ部. フォスタリング業務の効果的な実施 里親のリクルート及びアセスメント、里親に対する研修、マッチング等
第Ⅳ部. チーム養育の充実 里親とフォスタリング機関の関係性及びチーム養育、支援の質等
第Ⅴ部. 里親養育のもとで育つ子どもの経験 子どもの権利擁護と最善の利益の優先、子どもの基本的な生活等

<sup>6</sup> 才村（2005）によれば、措置制度とは、「まさにこれが国及び地方公共団体の児童養育責任の具体化にほかならず、高齢者や障害者福祉の分野において利用契約制度（支援費制度）が導入される中、児童福祉サービスのみが措置制度の対象として残されているのは、このことが最大の理由（下線引用者）」とされる。

<sup>7</sup> 世界保健機関憲章によれば、健康とは、“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.” 「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること（日本 WHO 協会訳）」とされ、「生活の質」の目的とされる。

## 7. 判定基準

判定のつけ方は、4段階（S, A, B, C）とします。なお、判定にあたって十分に考慮すべき事項は評価基準の詳細に付記してありますので、参考にしてください。

S	特に優れた取組みが実施されている (特に優れている/他と比べて際立った状態)
A	適切に実施されている (良い/十分な状態)
B	やや適切さにかける (良いものにするには改善が必要な状態)
C	適切ではない、または実施されていない (改善が期待される/不十分な状態)

## 8. 評価調査者の体制

評価の基本的な考え方を理解し、当該業務の特質を十分に認識するものが評価を行うためには、第三者評価を実施する場合、1件の第三者評価に2名以上の評価調査者が一貫して担当するものとします。いずれの評価調査者も、フォスタリング機関評価に関する研修を受講し、修了していることが望ましいですが、少なくとも1名は、これを受講し、修了しているようにします。

## 9. 評価結果の活用

### (1) 評価結果の活用

評価に基づく改善活動は、里親養育のもとで育つ子どもの権利擁護を図り、養育と支援の質の向上を目指すために、フォスタリング機関を始めとして、養育チームや児童相談所、関係機関が対話し協働して行うことが必要です。第三者評価報告書をもとに、関係機関で改善に向けた取組みの検討を行うことが期待されます。

なお、第三者評価の結果を取りまとめた報告書は、受審機関のWEBサイト等で公表することが望ましいでしょう。

### (2) 子ども向けレポート

評価結果の取りまとめ後、子どもに対して、評価者の気づきや受審機関の今後の取組みについて伝えるための子ども向けレポートも作成します。子ども向けレポートは、できるだけ平易な言葉を用いて要点を伝えるようにしましょう。

## II. 評価実施の流れ

### 1. 全体の進め方

第三者評価の実施の相談から、結果の公表までの基本的な流れは以下の通りです。



### 2. 各段階のプロセス詳細

#### 【STEP1】 評価実施の相談・打合せ

フォスタリング機関が評価機関に評価実施に関する相談を行い、評価機関からは、受審機関及び委託元である自治体（児童相談所）に実施内容とプロセスの概略の説明を行います。評価機関は、適切な評価方法の検討を行い、フォスタリング機関に提案をします。

#### 【STEP2】 実施決定・機密保持に関する覚書の締結

- ・ 評価方法を合意し、実施が決定した場合は、申込みから結果の公表までのスケジュールを受審機関と評価機関で協議します。なお、子ども向けインタビューについての調整を行う場合、子どもが集まるイベント等があれば、その機会を活用することも検討します。加えて、ケアリーバーの方がいれば、措置解除時や自立後のこと、ケアを離れてから感じていることなども聞けるため、参加いただける可能性があれば積極的に検討します。
- ・ 受審機関・自治体・評価機関の3者で機密保持に関する覚書を締結します。評価調査者は、機密保持に関する誓約書を提出します。

## 【STEP3】情報提供・調査協力

### ① 資料提出

A. 組織の運営・体制（評価基準第Ⅰ部）	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 事業の実施体制（組織図／職種別職員数／職員の職務内容）</li><li>➤ 職員の労働環境（直近1年程度の時間外勤務を含む勤務実績／年次休暇取得率）</li><li>➤ 個人情報取り扱いルール</li></ul>
B. 児童相談所とのパートナーシップ（評価基準第Ⅱ部）	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 自治体の概況（人口・児童人口／面積／児童相談所設置数／社会的養護施設数／社会的養護関係施設の入所児童数）</li><li>➤ 都道府県社会的養育推進計画（公表されているものを確認）</li><li>➤ 児童相談所の体制（里親担当者数）</li><li>➤ 里親制度等に関すること（直近5年の新規登録者数・里親等委託率・被措置児童等虐待の届出及び通告受理件数）</li><li>➤ 自治体からの委託業務（事業計画書・実績報告書・仕様書）</li><li>➤ 自治体や児童相談所との会議の状況（直近1ヶ月の開催数・名称・頻度）</li><li>➤ 各種様式（相談対応・アセスメント等）</li></ul>
C. 業務の効果的実施（評価基準第Ⅲ部）	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 普及啓発・リクルートについての実績が分かる記録</li><li>➤ 里親研修についての記録</li><li>➤ 里親支援に関するマニュアル等</li><li>➤ 里親等についての定量的データ</li></ul>

### ② 子ども・里親アンケート等の郵送協力

- ・ 評価機関が「挨拶文」「アンケート調査票（里親用・子ども用）」「インタビュー調査ご協力のお願い」「子ども用封筒」「返信用封筒」の5点の必要数を受審機関に送付します。
- ・ 受審機関は、「未委託里親家庭」「小学1年生未満の子どもを養育中の里親家庭」「小学2年生以上の子どもを養育中の里親家庭（子ども用調査票は対象の子ども的人数分）」ごとに調査票をセットにして郵送し、里親と子どもが回答した調査票は評価機関に直接返送いただきます（オンラインでの回答も可）。
- ・ 郵送費用は受審機関に後日請求いただきます。

### ③ 子ども・里親インタビューの調整協力

- ・ インタビューに協力可能と回答いただいた方について、受審機関に確認の上、候補者の選定を行います。候補者が決まった場合は、受審機関を通じて、インタビューの正式な依頼をします。

### ④ 自己評価の実施と結果の提出

#### 1) 受審機関は機関全体で自己評価を行う

受審機関は機関全体で協議し、全評価基準にS,A,B,Cの4段階の判定を行い、入力シートに記入します。項目によって児童相談所と受審機関双方の評価が必要な項目及び、児童相談所が主管する業務がある場合は児童相談所欄にチェックの上、児童相談所も自己評価を記入します。

#### 2) 受審機関の個々の職員は、オンラインフォームで評価についてコメントを提出

職員の方は、「Ⅰ.フォスタリング機関の運営・体制」「Ⅱ.児童相談所とのパートナーシップ」

「Ⅲ.フォスタリング業務の効果的な実施」「Ⅳ.チーム養育の充実」「Ⅴ.里親養育のもとで育つ子どもの経験」の5つについて課題や気づきをオンラインフォームで記入します。

なお、職員の方の回答内容は、評価調査者以外に直接見せることはないように配慮します。

#### 【STEP4】訪問調査

##### ① 聴き取り調査

受審機関・児童相談所・自治体担当者に聴き取り調査を行います。

聴き取り（対象）		実施目的	内容例
A.受審機関	① 機関の代表者	組織の全体状況の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関の受託業務、事業概要、運営体制</li> <li>・人材育成やマネジメント方針</li> <li>・リクルートから相談支援において大切にしていること、取り組んでいること</li> <li>・関係機関との役割分担、情報共有</li> <li>・権利擁護に関する考え方や取組み</li> <li>・現在感じている課題</li> <li>・自己評価結果について</li> </ul>
	② 支援の担当者	(1)業務の進め方/体制の把握 (2)個別ケースの支援事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各段階での支援の進め方、工夫、課題</li> <li>・職場環境、人材育成</li> <li>・情報管理、法令遵守等</li> <li>・事例①リクルート～措置解除まで行った中長期の養育のケース</li> <li>・事例②一時保護または短期委託のケース</li> <li>・事例③不調となったケースや複数機関で連携したケース</li> </ul> [資料] ケースファイル
B.児童相談所		児相からみた協働関係の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所における里親支援体制</li> <li>・当該機関との役割分担、情報共有の方法</li> <li>・当該機関とのパートナーシップ</li> <li>・当該機関の強み、委託してよかったこと</li> <li>・うまく行かなかったこと、課題</li> <li>・今後期待したいこと</li> </ul>
C.自治体		自治体からみた協働関係の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体としての里親委託に関する目標</li> <li>・民間委託の経緯、実績と今後の方針</li> <li>・当該機関の強み、委託してよかったこと</li> <li>・うまく行かなかったこと、課題</li> <li>・今後期待したいこと</li> </ul>
D.里親（個別） ※本人の意向と日程から協力可能な方に対して機関を通じて打診。養育経験を有する複数名への依頼が望ましい。		里親からみたチーム養育の状況把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問合せから里親登録までのプロセス</li> <li>・マッチングから委託までのプロセス</li> <li>・当該機関とのかかわり</li> <li>・実際に受けたサポートや説明、助かっていること、改善を望まれること等</li> <li>・養育で心掛けていること、お考え等</li> </ul>
E.中高生の子ども（グループ） ※本人の意向と日程から協力が可能な方に対して機関を通じて打診。6名程度での実施が望ましい。		子ども自身の経験の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な生活サイクル、休日の過ごし方</li> <li>・支援機関とのかかわり、受けたサポート</li> <li>・説明や意見聴取を受けた経験</li> <li>・子どもの権利や自立支援計画の理解</li> <li>・今の生活で満足していること、困り事等</li> </ul>

### <参考：子どもへのグループインタビュー実施にあたっての留意点>

- ・ 子どもの性別や特性等から、話しやすいグループ分けの方法を受審機関と事前に相談します。
- ・ 子どもが受審機関の職員と児童相談所の職員を判別していない場合があるため、受審機関の全職員の名前を確認した上で、子どもがフオスタリング機関の職員をどう呼んでいるか（△△の〇〇さん、〇〇先生等）、インタビューで使用する用語（自立支援計画等）を子どもが認識しているかを確認します。
- ・ また、参加してくれる子どもに対しては、必ず丁寧に趣旨説明を行い、子どもからの質問も受けるようにします。話したくないことがあれば、話さなくて良いことや途中でも辞められることなども事前に伝えます。評価機関やインタビュー内容の取扱い方法等についての説明は紙でも配布するようにします。

### ②訪問支援等への同行や行事への参加

訪問調査のタイミングを調整し、可能な場合は、行事への参加や訪問支援等へ同行させてもらうことも検討します。

### ③会議への参加（同席）

受審機関と児童相談所の了解が得られる場合は、両者の会議への参加も検討します。

### <参考：訪問調査スケジュール例>

	時間帯	実施内容	
1 日目	09:00～09:50	受審機関①機関の代表者	
	10:00～10:50	受審機関②支援の担当者(1)	
	11:00～11:50	受審機関②支援の担当者(2)	
	12:00～12:50	昼食	
	13:00～13:50	児童相談所の担当者	
	14:00～14:50	自治体の担当者	
	15:00～15:50	里親インタビュー①	里親インタビュー②
	16:00～16:50	里親インタビュー③	里親インタビュー④
	17:00～17:10	評価チーム内ミーティング	
	17:10～17:30	追加確認事項の聴き取り及び簡易フィードバック	
2 日目	09:00～12:00	イベント見学及び子どもインタビュー	

※可能な限り、就業時間内に終わられるように留意しましょう。

### 【STEP5】フィードバック

評価機関は、提出いただいた資料、訪問調査の結果を踏まえて、第Ⅰ部～Ⅴ部までの各部についての判定と総評コメントを取りまとめ、フィードバックを行います。

#### ① 受審機関に対してのフィードバック

子どもを中心としてサービスを捉えるために、フィードバックは可能な限り、関係機関である児童相談所・自治体なども含めて行います。関係機関とともに、改善を図っていく必要がある

ためです。

## ② 調査に協力いただいた子ども・里親に対する報告

調査に協力いただいた里親・子どもに対しても、評価を通じて明らかとなった受審機関の良い点や課題、今後の取組み方針などを平易な表現でまとめ、周知します。

### **【STEP6】結果の公表**

評価の結果は、WEB サイト等を通じて公表します。



### III. 評価基準(案)

#### 1. 評価基準(案)一覧

##### 第Ⅰ部 フォスタリング機関の運営・体制

##### 1. リーダーシップ及びコミットメント

フォスタリング機関のリーダーは、リーダーシップを発揮し、コミットメントを果たしているか

##### 2. 人材の確保・育成

人材の確保と育成に関する計画を立て、実行しているか

##### 3. 職場環境

職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいるか

##### 4. 情報管理

情報の取り扱いが適切に行われているか

##### 5. 法令遵守

職員は法令等を理解し、遵守しているか

##### 第Ⅱ部 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ

##### 6. 支援の連続性

フォスタリング業務は、一貫した体制の下に、支援の連続性を持って提供されているか

##### 7. 協働関係

児童相談所とフォスタリング機関は、適切な協働関係を築いているか

##### 8. 協働のプロセス

児童相談所とフォスタリング機関は、よりよい協働のために必要なプロセスを行っているか

##### 9. 協働の資源

児童相談所とフォスタリング機関は、協働するための資源を適切に確保しているか

##### 10. 児童相談所の苦情の受付

児童相談所は、苦情解決の仕組みをつくり、周知・機能させているか

##### 第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

##### i. 里親のリクルート及びアセスメント

##### 11. 里親リクルートのための現状分析と戦略立案

里親リクルートの課題などについて分析を行い、戦略的なアプローチを実行しているか

##### 12. 里親リクルートのための効果的な情報発信

問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの目標を立て、効果的な情報発信と見直

しを行っているか

13. 問い合わせへの対応とガイダンス

問い合わせに迅速に対応し、里親制度の意義やサポート体制などを丁寧にガイダンスしているか

14. 里親希望者のアセスメント

里親希望者に対して面接・研修や訪問調査を行い、適性を丁寧にアセスメントしているか

ii. 里親に対する研修

15. 登録前、登録後及び委託後における里親に対する研修

研修で習得した内容や反省点を面接等で言語化し、里親制度に対する理解を深めているか

iii. 里親の活動を促進する取組み

16. 登録後の里親に活動してもらう取組み

登録後の里親に活動してもらう取組みの実施や状況把握をしているか

17. 未委託里親への取組み

未委託里親への取組みの実施や家庭状況の確認をしているか

iv. 子どもと里親のマッチング

18. マッチングの検討

関係機関がアセスメント情報を持ち寄って十分に話し合い、適切なマッチングを検討しているか

19. 児童相談所による措置決定

児童相談所は、包括的にアセスメントを行い、適切に措置決定しているか

20. 委託前交流

子どもと里親の関係づくりを段階的に行い、子どもが安心して生活できるようにしているか

**第IV部 チーム養育の充実**

i. 里親とフォスタリング機関の関係性及びチーム養育

21. 里親とフォスタリング機関の関係性

里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションを図り、信頼関係が築かれているか

22. チーム養育と支援ネットワーク

里親とフォスタリング機関、児童相談所はチーム養育の意識を持ち、子どもに重層的な支援を行っているか

ii. 里親養育における支援の質

23. 里親養育のサポート

フォスタリング機関は里親養育のサポートを適切に行っているか

24. 里親養育に関するスーパービジョン

より質の高い養育を実現するためのスーパービジョンが行われているか

25. 里親養育の状況に応じた支援のコーディネート

子どもが様々な社会資源を活用できるようコーディネートし、その効果やニーズの充足を確認しているか

26. 里親同士の関係構築支援

里親同士が横のつながりを築けるようにサポートされているか

27. 子どもと実親との面会交流

面会交流については、子どもと里親に対して丁寧に説明し、可能な限り子どもの意見を尊重しているか

28. 里親家庭での養育が不安定になった場合の対応

里親家庭での養育が不安定になった場合は必要な対応をしているか

29. 被措置児童等虐待の防止と早期発見

里親家庭での子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいるか

30. 里親委託が不調となった場合の対応

里親委託が不調となった場合は事情に応じて丁寧な説明を行い、子どもの意見や気持ちに配慮しているか

31. 委託解除時における里親の喪失感への配慮

里親の喪失感へのサポートを行うとともに、解除後の子どもと里親との関わりをアセスメントしているか

## 第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

### i. 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

32. 子どもの権利についての理解促進

子どもに対して、権利についてわかりやすく説明し支援しているか

33. 子どもへの説明と意見聴取

援助過程において、子どもが理解できるような説明と意見聴取が適切に行われているか

34. 子どもの意見表明支援

子どもの権利を擁護するために、子どもの意見形成や意見・意向表明を支援しているか

35. 子どもの生き立ちの振り返りと、記録の保管・開示

子どもの発達や意向に応じて、自分自身の生き立ちを振り返る取組みを行っているか

36. 子どもの権利侵害の防止

子どもへの不適切な関わりに対する予防や対策が適切に行われているか

### ii. 子どもの基本的な生活

37. 子どものウェルビーイング

子どもは、日常の中で健やかな成長・発達が図られるような生活を送っているか

38. 性に関する教育

子どもに対して、性についての正しい知識を教え、子どもの疑問や不安に応えるようにしているか

39. 非常時・災害時の安全の確保

非常時・災害時に備えて、子どもの安全が確保されるように努めているか

40. 子どもの人格の尊重

子どもは、人格が尊重され、主体的な自己決定を支援されているか

41. 子どもへの支援

子どもは、ニーズに応じて、必要な支援を受けられるようになっているか

42. 子どもへのかかわりと関係性

里親家庭、フォスターリング機関、児童相談所等の子どもへのかかわりと関係性はどうか

43. 里親家庭で育つ子ども同士の関係構築支援

里親家庭で育つ子どもは、横のつながりが築けるようになっているか

44. 自立支援計画

自立支援計画は、適切に見直しが行われ、子どもがその内容を理解しているか

**付加評価**

独自の取組みや独自事業

## 2. 評価基準(案)詳細

評価基準及び評価の着眼点・ポイントを示したものを次ページ以降に掲載した。

第Ⅰ部 フォスタリング機関の運営・体制

1. リーダーシップ及びコミットメント

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	
<b>フォスタリング機関のリーダーは、リーダーシップを発揮し、コミットメントを果たしているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> フォスタリング機関のリーダーの責任と権限を明確にしている  <input type="checkbox"/> 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組みを行っている  <input type="checkbox"/> リーダーシップを発揮して、コミットメントを果たせるように業務を実施している		

第1部 フォスタリング機関の運営・体制

2. 人材の確保・育成

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	
人材の確保と育成に関する計画を立て、実行しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 必要な人材の採用と育成が行われている  <input type="checkbox"/> フォスタリング機関の業務の質の向上、効率化のための取組みを実施している  <input type="checkbox"/> 職員に必要な専門性が確保されるための取組みを行っている		

第Ⅰ部 フォスタリング機関の運営・体制

3. 職場環境

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	
<b>職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいるか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい環境にするための取組みを行っている  <input type="checkbox"/> 年次休暇の取得状況や労働時間が適正である		



第Ⅰ部 フォスタリング機関の運営・体制

4. 情報管理

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	
情報の取り扱いが適切に行われているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 個人情報の保護・管理が適切に実施されている		
<input type="checkbox"/> 個人情報管理の責任者が明確である		

第1部 フォスタリング機関の運営・体制

5. 法令遵守

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	
<b>職員は法令等を理解し、遵守しているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 職員は遵守すべき法令等を理解している  <input type="checkbox"/> 業務に従事する者又は従事していた者は、守秘義務を遵守している		

第Ⅱ部 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ

6. 支援の連続性

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>フォスタリング業務は、一貫した体制の下に、支援の連続性を持って提供されているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> フォスタリング業務は、一貫した責任体制の下に、包括的に実施されている  <input type="checkbox"/> 子どもや里親への支援は連続性を持って提供されている		

第 II 部 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ

7. 協働関係<sup>8</sup>

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>児童相談所とフォスタリング機関は、適切な協働関係を築いているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 両機関は、機関ごとの役割を明確化し、それぞれの責任を理解している  <input type="checkbox"/> 両機関の職員は、協働への意欲を持ち、コミットメントを持って取組んでいる  <input type="checkbox"/> 両機関は、相互の信頼があり、お互いの職員への配慮をしている  <input type="checkbox"/> 両機関は、相手を理解し、パートナーシップを発展させている  <input type="checkbox"/> 両機関は、互いに成長し、貢献し合えるという認識を持っている		

<sup>8</sup> 評価項目の「7.協働関係」「8.協働のプロセス」「9.協働の資源」は、Mary Atkinson, Megan Jones and Emily Lamont (2007) *Multi-agency working and its implications for practice:A review of the literature.* を参考として作成した。( <https://www.nfer.ac.uk/media/2001/mad01.pdf> )

第 II 部 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ

8. 協働のプロセス

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
児童相談所とフォスタリング機関は、よりよい協働のために必要なプロセスを行っているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 両機関は、継続的にコミュニケーションをとり、意思疎通を図っている  <input type="checkbox"/> 両機関は、業務の目的を明確にし、適切な目標（具体的な成果目標を含む）を合意している  <input type="checkbox"/> 両機関は、ニーズを分析し、関係者と協議して計画を立てている  <input type="checkbox"/> 両機関は、プロセスや手順を確立し、継続的に見直している  <input type="checkbox"/> 両機関は、情報共有に関するルールを定め、正確な情報を共有している		

第 II 部 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ

9. 協働の資源

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>児童相談所とフォスタリング機関は、協働するための資源を適切に確保しているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<p><input type="checkbox"/> 両機関は、フォスタリング業務に対応する専任職員の配置やチームの設置等、適切な体制となっている</p> <p><input type="checkbox"/> 両機関は、業務内容や地域の規模、担当ケース数等に対し、適切な職員数が配置されている</p> <p><input type="checkbox"/> 両機関は、フォスタリング業務を行うための必要な資金を確保している</p> <p><input type="checkbox"/> 両機関は、事業の立ち上げや協働の実施のために必要な時間が不足していない</p>		

第Ⅱ部 児童相談所とフォスターリング機関のパートナーシップ

10. 児童相談所の苦情の受付

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	必須
児童相談所は、苦情解決の仕組みをつくり、周知・機能させているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 児童相談所は、苦情解決の仕組みを確立し、機能させている  <input type="checkbox"/> 児童相談所は、苦情の受付窓口を子どもや里親等に定期的に周知している		

第Ⅲ部 フォスターリング業務の効果的な実施

i. 里親のリクルート及びアセスメント

11. 里親リクルートのための現状分析と戦略立案

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p><b>里親リクルートの課題などについて分析を行い、戦略的なアプローチを実行しているか</b></p>		
<p>(評価の着眼点・ポイント)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><input type="checkbox"/> 里親希望者の傾向や里親を希望する理由、認知方法、問い合わせ件数等を情報収集している</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した情報をもとに、里親をリクルートするための現状分析を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ターゲットの特徴に合わせた戦略的な広報アプローチを実行している</p> <p>(具体的な取組例は、ポスターの掲示、チラシ・リーフレットの配布、ポスティング、車内広告の実施、テレビ・ラジオにおける番組や広告の放映、インターネット（ホームページ、SNSなど）を活用した情報発信、市政だより及び回覧板の活用、雑誌・フリーペーパーへの記事掲載、街の身近な場所で気軽に説明を聞くことができる場の設定、里親または里親経験者からの口コミなどである。特に、里親との出会いや口コミは効果的とされる<sup>9</sup>。)</p>		

<sup>9</sup> Judy Sebba (2012) *Why do people become foster carers? An International Literature Review on the Motivation to Foster*の調査結果による。

(<http://www.education.ox.ac.uk/wp-content/uploads/2019/06/Why-Do-People-Become-Foster-Carers-An-International-Literature-Review-on-the-Motivation-to-Foster.pdf>)

(日本語訳版：「なぜ人々は里親になるのか?-里親として子どもを養育するための動機づけに関する国際文献レビュー」

<https://waseda-ricsc.jp/content/uploads/2021/10/f31f22f144970b3b7406cbb1a54e7f04.pdf>)



第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

i. 里親のリクルート及びアセスメント

12. 里親リクルートのための効果的な情報発信

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの目標を立て、効果的な情報発信と見直しを行っているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの具体的な目標を立てている  <input type="checkbox"/> 取組みの効果を測定し、進捗の確認や見直しを行っている  <input type="checkbox"/> 里親制度についての情報発信が問い合わせの増加や里親登録につながっている		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

i. 里親のリクルート及びアセスメント

13. 問い合わせへの対応とガイダンス

評価項目	評価対象	
	当機 関	児 童 相 談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
問い合わせに迅速に対応し、里親制度の意義やサポート体制などを丁寧にガイダンスしているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 気軽に問い合わせできるようにしている  <input type="checkbox"/> 関心を持っていただいた市民からの問い合わせに迅速に対応している  <input type="checkbox"/> 養育里親への経済的なサポートや支援体制など不安や負担感を軽減できるような説明をしている  <input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズや行動特性、里親の役割などを丁寧にガイダンスしている  <input type="checkbox"/> 実子がいる家庭に対しては、実子との関係などの不安を解消する工夫をしている		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

i. 里親のリクルート及びアセスメント

14. 里親希望者のアセスメント

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>里親希望者に対して面接・研修や訪問調査を行い、適性を丁寧にアセスメントしているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親を希望する理由を丁寧に確認し、里親になる動機を明確にしている <input type="checkbox"/> 家庭訪問調査を必ず行い、近隣の環境や居住環境の把握と、同居家族の意向を確認している <input type="checkbox"/> 面接や家庭訪問は、調査者を含め複数の専門職で行い、児童相談所も直接確認している <input type="checkbox"/> 里親としての適性は、子どもの委託をイメージした上で確認し、児童相談所と理解を共有している <input type="checkbox"/> 実習先での里親希望者の評価（強みや弱み）を確認し、アセスメントに活かしている <input type="checkbox"/> 子どもを迎えたことによって生じた変化を家族で助け合って乗り越えられるかを見極めている <input type="checkbox"/> 里親としての適性が不十分な場合には、希望者に結果をフィードバックし、今後の対応を伝えている		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

ii. 里親に対する研修

15. 登録前、登録後及び委託後における里親に対する研修

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p><b>研修で習得した内容や反省点を面接等で言語化し、 里親制度に対する理解を深めているか</b></p>		
<p>(評価の着眼点・ポイント)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 里親希望者に対する研修は、希望者を長期間待たせることなく行われている</li> <li><input type="checkbox"/> 登録前研修後は、習得した内容や反省点について面接等で言語化し、里親制度への理解を確認している</li> <li><input type="checkbox"/> 登録前研修のステップごとに、里親希望者のニーズや意向を把握している</li> <li><input type="checkbox"/> 演習を組み入れ、気づき及び疑問等について里親間で話し合い、理解を深めるようにしている</li> <li><input type="checkbox"/> 里親登録後の研修では、里親のスキルアップを図り、里親の強みや課題を捉えている</li> <li><input type="checkbox"/> 研修では、里親の役割を子どもの視点で捉え、実親との協働が子どもの健やかな成長に寄与することを伝えている</li> <li><input type="checkbox"/> 研修内容は、必要なスキルや知識を得るために十分な内容であり、適時改善を図っている  <small>(研修においては、養育技術や、真実告知等の里親養育を行う際に生じる課題だけではなく、子どもの権利保障、里親養育の最低基準及び被措置児童等虐待の防止等についても扱っている)</small></li> <li><input type="checkbox"/> 子どもの委託後は、ニーズに沿った実践的な研修を実施し、里親の相互交流の機会も設けている</li> </ul>		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

iii. 里親の活動を促進する取組み

16. 登録後の里親に活動してもらう取組み

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>登録後の里親に活動してもらう取組みの実施や 状況把握をしているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 登録後の里親が活動したり参加したりする機会を設けている  <input type="checkbox"/> 登録後の里親が委託の準備やモチベーションの維持・向上につながる取組みを実施している  <input type="checkbox"/> 登録後の里親の研修受講や活動状況を把握している		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

iii. 里親の活動を促進する取組み

17. 未委託里親への取組み

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
未委託里親への取組みの実施や家庭状況の確認をしているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 未委託里親に対するトレーニングや研修等を実施し、 養育力の向上を図っている  <input type="checkbox"/> 未委託里親の家庭状況を定期的に確認している		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

iv. 子どもと里親のマッチング

18. マッチングの検討

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p><b>関係機関がアセスメント情報を持ち寄って十分に話し合い、適切なマッチングを検討しているか</b></p>		
<p>(評価の着眼点・ポイント)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、リクルートから研修までに把握した里親家庭に関する情報を児童相談所に十分に提供している</li> <li><input type="checkbox"/> 施設入所または一時保護の場合には、当該児童福祉施設におけるアセスメント情報等を踏まえている</li> <li><input type="checkbox"/> 子ども、実親、里親に対して十分な情報提供を行うとともに、子ども・里親の熟慮期間を確保している</li> <li><input type="checkbox"/> 子どもと里親家庭の状況を踏まえたチーム養育体制の支援計画等を踏まえてマッチングしている</li> </ul>		

第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

iii. 子どもと里親のマッチング

19. 児童相談所における措置決定

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	必須
児童相談所は、包括的にアセスメントを行い、 適切に措置決定しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 児童相談所は、子どもの行動特性や子ども及び実親のニーズ、 家庭復帰についての見通しなどを包括的にアセスメントしている  <input type="checkbox"/> 措置決定の際には、年齢等に合わせた適切な方法により、 予め子どもの意見を聴取している  <input type="checkbox"/> 児童相談所は、関係機関によるアセスメントを十分踏まえた上で 里親委託措置を決定している		



第Ⅲ部 フォスタリング業務の効果的な実施

iii. 子どもと里親のマッチング

20. 委託前交流

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもと里親の関係づくりを段階的に行い、子どもが安心して生活できるようにしているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親に対し、子どもに関する情報や養育上の留意点を十分に説明している  <input type="checkbox"/> 里親と同居家族の受け止めと意向を丁寧に確認し、不安がある場合の整理や地域資源の調整をしている  <input type="checkbox"/> 子どもと里親の関係づくりは、段階的に行われている  <input type="checkbox"/> 交流中の子どもと里親家庭の様子、関係性の変化等を把握している  <input type="checkbox"/> 子どもの気持ちを大切にし、安心して里親家庭で生活できるよう必要に応じた支援を行っている  <input type="checkbox"/> 一時保護委託や実家庭からの直接委託となる場合は、より慎重に委託後の支援を行っている		

第IV部 チーム養育の充実

i. 里親とフォスタリング機関の関係性及びチーム養育

21. 里親とフォスタリング機関の関係性

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションを図り、信頼関係が築かれているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションをとっている  <input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は双方向の信頼関係を構築している  <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、里親が日常的に相談しやすい環境を作るようにしている  <input type="checkbox"/> 里親は、養育上の課題や難しさを感じた場合には、早い段階でフォスタリング機関に相談し、助言に耳を傾けている		

【評価機関が評価する際の留意点】

○里親の気持ちに寄り添う体制については、里親へのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

第IV部 チーム養育の充実

i. 里親とフォスタリング機関の関係性及びチーム養育

22. チーム養育と支援ネットワーク

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>里親とフォスタリング機関、児童相談所はチーム養育の意識を持ち、子どもに重層的な支援を行っているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関、児童相談所は、チーム養育を協働して行うという意識を持っている  <input type="checkbox"/> 養育チームは、ミーティングなどを通じて密に連携し、信頼関係を構築している  <input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は、養育で必要となる社会資源の利用について話し合っている  <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、子どものニーズに応じて、里親養育を理解し支援する地域ネットワーク（「応援チーム」）を構築するよう努めている  （応援チーム構成の機関例：市区町村（主に家庭福祉主管課や母子）、保健センター、乳児院や児童養護施設（里親支援専門相談員）等、教育委員会、学校、保育所・幼稚園・認定こども園等、医療機関、児童家庭支援センター、里親会、民生委員、児童委員 等）		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

23. 里親養育のサポート

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>フォスタリング機関は里親養育のサポートを適切に行っているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 家庭訪問や電話等を通じて、子どもの養育状況や里親家庭の状況を把握している		
<input type="checkbox"/> 里親の疑問や悩み、意見や苦情、養育困難などの訴えを聴き、ガイダンスとサポートをしている		
<input type="checkbox"/> 定期的な家庭訪問の目的や内容・頻度等を明確にし、委託直後や養育が不安定になった場合などには頻度高く訪問している  <small>(里親委託ガイドラインでは、訪問頻度は「委託直後の2か月間は2週に1回程度、委託の2年後までは毎月ないし2か月に1回程度、その後は概ね年2回程度訪問する。」とされている。)</small>		
<input type="checkbox"/> 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応できるようにサポートしている		
<input type="checkbox"/> 実親との面会交流時や措置解除前後は、子ども及び里親への心理的サポートを行っている		

【評価機関が評価する際の留意点】

○里親の意向（意見・気持ち）聴取については、里親へのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

24. 里親養育に関するスーパービジョン

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
より質の高い養育を実現するためのスーパービジョンが行われているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親養育の様々な場面において、里親の適切な対応を支持、承認し、日々の養育の営みを尊重している  <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の発生予防の視点を含めた、養育水準のチェックとスキル向上に向けた助言や指導をしている		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

25. 里親養育の状況に応じた支援のコーディネート

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもが様々な社会資源を活用できるようコーディネートし、その効果やニーズの充足を確認しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 子どもや里親が地域で孤立しないように、里親養育を支援する支援体制を地域に構築している  <input type="checkbox"/> レスパイト・ケアの利用を勧奨・調整している  <input type="checkbox"/> 子どもや里親と関係機関との間で摩擦や葛藤等が生じた場合には、関係調整等の必要な支援を行っている		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

26. 里親同士の関係構築支援

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
里親同士が横のつながりを築けるようにサポートされているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親が話し合いや情報交換できる機会等を定期的に設けている  <input type="checkbox"/> 里親が里親同士の相互交流に参加しやすいように工夫している  <input type="checkbox"/> その他里親同士の関係構築が促進される独自の取組みを行っている  (独自の取組みの具体的な内容：  <div style="text-align: right;">)</div>		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

27. 子どもと実親との面会交流

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
面会交流については、子どもと里親に対して丁寧に説明し、可能な限り子どもの意見を尊重しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<p>実親との面会交流の具体的な方法や養育状況の報告、親子関係</p> <p><input type="checkbox"/> 再構築支援計画については、可能な限り子どもと実親の参加の下、里親及び担当児童福祉司と協議、調整のうえ、作成している</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭復帰のための短期集中的な交流の場合は、子どもと里親家庭への説明を丁寧に行い、疑問や不安にその都度対応している</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的な面会交流の場合は、交流前後の子どもと里親家庭の状況を把握し、安定が図られるよう適切な対応を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 面会交流に制限が必要な場合やリスクが高いと判断した場合は、必要に応じて調整を行っている</p>		



第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

28. 里親家庭での養育が不安定になった場合の対応

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
里親家庭での養育が不安定になった場合は必要な対応をしているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 養育が不安定になった場合は、早急に状況を把握している		
<input type="checkbox"/> 問題の要因に応じて、児童相談所と情報を共有し、迅速に対応方針を検討している		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

29. 被措置児童等虐待の防止と早期発見

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	必須
里親家庭での子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいるか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親に対して、不適切なかかわりの具体的な例を示し、被措置児童等虐待の防止に取り組んでいる  <input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識・方法を学習する機会を設け、子ども自らが訴えることができるようにしている  <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じた場合に、迅速かつ適切な対応ができる体制が整備されている  <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

30. 里親委託が不調となった場合の対応

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>里親委託が不調となった場合は事情に応じて丁寧な説明を行い、子どもの意見や気持ちに配慮しているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> フォスターリング機関は、里親委託が不調となった場合に十分なアセスメントをしている  <input type="checkbox"/> 子どもに対して、事情に応じて丁寧かつ十分な説明を行って、子どもの意見を聴き、子どもの気持ちに配慮している  <input type="checkbox"/> 里親委託が不調となった場合は、次の養育の場への移行を丁寧に支援し、子どもの心理的ダメージに留意し、具体的なケアをしている  <input type="checkbox"/> 里親と時機をみて、時間をかけて振り返り、整理することによって、養育チーム全体として受け止められるようにしている		

第IV部 チーム養育の充実

ii. 里親養育における支援の質

31. 委託解除時における里親の喪失感への配慮

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
里親の喪失感へのサポートを行うとともに、解除後の子どもと里親との関わりをアセスメントしているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 委託解除前後の里親自身の感情の問題や受けられるサポートについて、研修の場等で予め触れている  <input type="checkbox"/> 児童相談所が中心となって、子どもが里親家庭での経験を振り返り、可能な範囲で里親家庭とのつながりを保ち続けるよう努めている  <input type="checkbox"/> 子どもの今後の生活にとって、里親とどのような関わりを持つのが良いのかをアセスメントしている		

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

i. 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

32. 子どもの権利についての理解促進

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	必須
子どもに対して、権利についてわかりやすく説明し支援しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 子どもの権利ノートを配布し、子どもの権利について分かりやすく伝えている		
<input type="checkbox"/> 里親は、子どもの権利を理解し、日常生活の中で子どもの権利をサポートしている		
<input type="checkbox"/> 里親と支援機関は、子どもの年齢や発達に応じた目標を立て、説明方法を工夫している <sup>10</sup>		

【評価機関が評価する際の留意点】

○子どもの権利についての説明や理解については、子どもへのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

<sup>10</sup> ユネスコ編 (2021) 『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】-科学的根拠に基づいたアプローチ』を参考とした。

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

i. 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

33. 子どもへの説明と意見聴取

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
援助過程において、子どもが理解できるような説明と意見聴取が適切に行われているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 援助方針や見通しについて、子どもに分かりやすく説明している  <input type="checkbox"/> 子どもに対して面接の目的を明らかにし、子どもが話しやすい環境で意見を聴いている  <input type="checkbox"/> 定期的に子どもの意向を把握し、子どもの意見が支援内容等に反映されている		

【評価機関が評価する際の留意点】

○援助過程での子どもへの説明や意向（意見・気持ち）聴取については、子どもへのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

i. 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

34. 子どもの意見表明支援

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもの権利を擁護するために、子どもの意見形成や意見・意向表明を支援しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親は、日常生活の中で子どもの意見形成や意見・意向表明をサポートしている  <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、日々の支援の中で子どもの意見形成や意見・意向表明をサポートしている  <input type="checkbox"/> 子どもがフォスタリング機関以外の意見・意向表明の仕組みを利用できるように説明や支援を行っている  <input type="checkbox"/> 子どもが子どもアドボケイトの仕組みを活用したケースがある  (子どもの権利条約に規定された権利を擁護するために、里親家庭や施設等で生活する子どもたちの意見・意向表明を支援する子どもアドボケイトの設置が進められている。)		

【評価機関が評価する際の留意点】

○日々の生活や支援での子どもへの意見形成支援や意向（意見・気持ち）聴取については、子どもへのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

i. 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

35. 子どもの生い立ちの振り返りと、記録の保管・開示

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもの発達や意向に応じて、自分自身の生い立ちを振り返る取組みを行っているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの記録を収集・整理し、適切に保管している  <input type="checkbox"/> 子どもの発達に応じて、生い立ちの振り返りの計画を立てている  <input type="checkbox"/> 伝え方や内容について支援者間で協議し、共有している  <input type="checkbox"/> 委託解除時には、子どもに対して、過去に受けた決定を知ることができること及び文書等の保存期間を適切に説明している		



第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

i. 子どもの権利擁護と最善の利益の優先

36. 子どもの権利侵害の防止

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	必須
子どもへの不適切な関わりに対する予防や対策が適切に行われているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組みを行っている		
<input type="checkbox"/> 子どもが権利侵害にあった場合の届出の仕組みを子どもに分かりやすく説明している		

【評価機関が評価する際の留意点】

○子どもに対する不適切な関わりについては、子どもへのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

37. 子どものウェルビーイング

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもは、日常の中で健やかな成長・発達が図られるような生活を送っているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 子どもは、日常的に十分な衣食住の生活を送れるよう養育されている <input type="checkbox"/> 子どもは、心身ともに健康的な生活ができるよう健康を管理され、必要な医療を受けられるようになっている <input type="checkbox"/> 子どもは、基本的な生活習慣（起床・就寝・遊び・勉強・家事）を身につけられるよう支援されている <input type="checkbox"/> 子どもは、余暇に運動したり芸術・文化に触れたりする機会を提供されている <input type="checkbox"/> 子どもは、年に数回は文化芸術活動（映画・美術館・博物館等）を行う機会を提供されている <input type="checkbox"/> 学習意欲を十分に引き出せるよう学習環境が整えられている <input type="checkbox"/> 最低限必要な家庭の決まりは、子どもに説明し、意見を聞いた上で、合意するようにしている		

【評価機関が評価する際の留意点】

○子どもの基本的な生活については、子ども及び里親へのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

38. 性に関する教育

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもに対して、性についての正しい知識を教え、子どもの疑問や不安に応えるようにしているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親は性に関することをタブー視せず、子どもの疑問や不安に応えるように努めている  <input type="checkbox"/> 子どもの年齢・発達の状況に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設けている		

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

39. 非常時・災害時の安全の確保

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
非常時・災害時に備えて、子どもの安全が確保されるように努めているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 非常時の連絡方法や安全確保、避難場所について里親家庭で確認し、子どもにも説明している  <input type="checkbox"/> 食料や備品類など災害時の備蓄等を行っている		

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

40. 子どもの人格の尊重

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p><b>子どもは、人格が尊重され、主体的な自己決定を支援されているか</b></p>		
<p>(評価の着眼点・ポイント)</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><input type="checkbox"/> 里親は、子どもが自分の好みや要望を表現しやすい雰囲気や関係性づくりを心がけている</p> <p><input type="checkbox"/> 里親は、子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動できるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、子どもの選択を尊重し、自発的な活動ができるように支援するよう努めている</p>		

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

41. 子どもへの支援

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
子どもは、ニーズに応じて、必要な支援を受けられるようになっているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 子どもは個別のニーズに応じてコーディネートされた支援を受けられるようになっている <input type="checkbox"/> 養育方針は、子どもにとって望ましいものとなるよう定期的に見直している <input type="checkbox"/> 子どもの成長を養育チーム全体で確認するとともに、子どもを含めてその成長を評価している		

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

42. 子どもへのかかわりと関係性

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>里親家庭、フォスタリング機関、児童相談所等の子どもへのかかわりと関係性はどうか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 里親家庭（養育者、実子等）の子どもへのかかわりと関係性は適切である <input type="checkbox"/> フォスタリング機関の職員の子どもへのかかわりと関係性は適切である <input type="checkbox"/> 児童相談所の職員の子どもへのかかわりと関係性は適切である <input type="checkbox"/> 養育チームで役割分担をし、子どもの疑問や悩み、訴えに耳を傾けている <input type="checkbox"/> 子ども自身が問題を抱えた時の相談先をわかるようにしている <input type="checkbox"/> 実子がフォスタリング機関または児童相談所の職員へ相談できる機会を作っている		

第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

43. 里親家庭で育つ子ども同士の関係構築支援

評価項目	評価対象	
	当機関	児童相談所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>里親家庭で育つ子どもは、横のつながりが築けるようになっているか</b>		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 子ども同士が遊び等を通じて相互交流できる機会を定期的に設けている		
<input type="checkbox"/> 乳幼児や中高生の子どもでも参加しやすいように工夫している		
<input type="checkbox"/> 実子が参加したり実子同士が交流したりするための配慮がされている		



第V部 里親養育のもとで育つ子どもの経験

ii. 子どもの基本的な生活

44. 自立支援計画

評価項目	評価対象	
	当機 関	児 童 相 談 所
	<input type="checkbox"/>	必須
自立支援計画は、適切に見直しが行われ、 子どもがその内容を理解しているか		
(評価の着眼点・ポイント)		
<input type="checkbox"/> 自立支援計画は、子どもの意見が尊重され、子どもが理解している  <input type="checkbox"/> 自立支援計画は、可能な限り子どもと実親の参加の下、担当児童福祉司 及び里親とともに作成・共有し、進捗を把握している  <input type="checkbox"/> 委託解除前から自立に向けた支援が行われている		

【評価機関が評価する際の留意点】

○自立支援計画については、子どもへのアンケートやインタビュー結果も十分に踏まえて評価を行います。

付加評価

独自の取組みや独自事業

評価項目	評価対象	
	当機 関	児童 相談 所
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>独自の取組みや独自事業</b>		
取組み名称や実施の経緯、実施内容、工夫		
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>		

### 3. 里親・子ども向けアンケート調査票（案）

子どもを中心としてサービスを捉えることを目的に、子ども及び里親向けのアンケート調査票を作成した。調査項目は、前掲の評価基準に一部対応した内容で構成した。調査票は、フォスタリング機関経由で配布し、評価機関に直接返送を依頼する。

里親への依頼状には、子どもがアンケートに回答する際には、里親の方から子どもに対して、フォスタリング機関の担当者名（担当制でない場合は、子どもへの支援を行ったことのあるフォスタリング機関の職員）を伝えた上で、回答協力いただきたい旨を記載する。

## フォスタリング機関に関する調査（里親用）

### ◇調査のご協力をお願い◇

この調査票は、里親登録をされている方々に、フォスタリング機関に関しての現状やお考えについてお伺いするものです（回答は1世帯1枚まで）。ご回答の際は、あてはまる選択肢の番号を○（マル）で囲んでいただくか、具体的な内容、数字をご記入ください。特に断りのない場合は、202●年（和暦●年）●月●日現在の状況についてご記入をお願いします。

ご記入いただいた回答結果は、フォスタリング機関または児童相談所の職員が直接確認することはありません。また、回答結果を公表する際は、統計的に処理した上で、回答者が特定されないようにします。

ご記入が終わりましたら、記入漏れや間違いがないかをご確認いただき、●年●月●日（●）までに同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストに投函してください。

### 里親制度に関する問合せと研修についてお聞きします。

問1. 里親に関心を持ったきっかけは何でしたか？（○はいくつでも）

- |               |         |           |                                 |
|---------------|---------|-----------|---------------------------------|
| 1. テレビ・ラジオの放映 | 2. 車内広告 | 3. 雑誌等    | 4. 市政だより及び回覧板                   |
| 5. チラシ・リーフレット | 6. ポスター | 7. ポスティング | 8. ホームページ                       |
| 9. インターネット広告  | 10. SNS | 11. 口コミ   | 12. 知り合いが里親又は里子                 |
| 13. セミナー・イベント | 14. 病院  | 15. 宗教団体  | 16. 児童福祉施設                      |
| 17. 行政窓口      | 18. 書籍  | 19. 不妊治療  | 20. その他（                      ） |

問2. 里親制度に関する問合せから登録までの対応をどのように思われましたか？（○は各1つだけ）

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	ま ったく そう 思わ ない	わ か ら な い
A 里親制度について気軽に問合せできる	1	2	3	4	5
B 問合せへの対応が迅速である	1	2	3	4	5
C 経済的なサポートや支援体制など不安や負担感が軽減できるような説明をしている	1	2	3	4	5
D 子どものニーズや行動特性、里親の役割などを丁寧に説明している	1	2	3	4	5
E 里親登録にいたるまで、検討段階に応じた情報提供がある	1	2	3	4	5

問3. 里親登録前の研修について、どのように思われましたか？（○は各1つだけ）

※参加したことがない場合や研修がなかった場合は「わからない」を選択して下さい。

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	わ か ら な い
A 研修は、問合せから長期間待たせることなく行われている	1	2	3	4	5
B 研修では、演習が行われ、気づき及び疑問等について里親間で話し合い、理解を深めている	1	2	3	4	5
C 研修受講後は、研修で習得した内容や反省点について面接等で言語化している	1	2	3	4	5
D 登録まで研修のステップごとに、ニーズや意向を確認されている	1	2	3	4	5
E 登録前研修は、必要な知識や技術を得るために十分な内容である	1	2	3	4	5

問4. 里親登録後の研修について、どのように思われましたか？（○は各1つだけ）

※参加したことがない場合や研修がなかった場合は「わからない」を選択して下さい。

	とても そう思う	そう 思う	そう 思わない	まったく そう 思わない	わ か ら な い
A 研修は、里親のスキルアップにつながる	1	2	3	4	5
B 研修は、里親養育に必要な知識が深まる	1	2	3	4	5
C 実親との協働の重要性を認識できる	1	2	3	4	5
D 里親委託後の研修は、実践的な内容である	1	2	3	4	5
E 里親の相互交流は、里親同士のピアサポートにつながる	1	2	3	4	5

問5. 里親登録前の訪問調査では、同居家族の意向についても確認されましたか？（○は1つだけ）

1. 確認された	2. 確認されなかった	3. わからない・覚えていない
----------	-------------	-----------------

問6. （里親登録後）未委託の期間中、未委託の理由について説明がありましたか？（○は1つだけ）

1. あった	2. なかった	3. 未委託の期間がなかった
--------	---------	----------------

問7. 問6で「1. あった」と回答された方にお聞きします。説明は納得できる内容でしたか？（○は1つだけ）

1. 納得できた	2. 納得できなかった	3. どちらとも言えない
----------	-------------	--------------

問8. 子どもの里親委託または委託一時保護を受けたことはありますか？（○は1つだけ）

1. いずれもない	2. 里親委託のみある	3. 委託一時保護のみある	4. 両方ある
-----------	-------------	---------------	---------

**マッチングと委託前交流について教えてください。**

問9. 子どもとのマッチングと委託前交流についてどう思われましたか？（○は各1つだけ）

※ご経験がない場合は「わからない」を選択して下さい。

	とても そう思う	そう 思う	まったく そう 思わない	ま ったく そう 思わ ない	わ か ら な い
A 子どもに関する情報や養育上の留意点について説明があった	1	2	3	4	5
B 子どもと里親の関係づくりは段階的に行われていた	1	2	3	4	5
C 子どもを迎える準備のためのサポートがあった	1	2	3	4	5
D 子どもは気持ちを大切にされ、安心して里親家庭で生活できるよう支援されていた	1	2	3	4	5
E 里親家庭と子どもの熟慮のための期間が確保されていた	1	2	3	4	5

**フォスタリング機関と児童相談所の支援について教えてください。**

問10. フォスタリング機関について、どのように思っていますか。(○は各1つだけ)

	とても 思う	そう 思う	そう 思わない	ま った く そ う 思 わ な い	支 援 を 受 け た こ と が な い
A マッチングの時に希望を考慮してもらえる	1	2	3	4	5
B 委託後に定期的に家庭訪問や電話などのフォローが十分ある	1	2	3	4	5
C 子どもの養育について困ったときに相談しやすい	1	2	3	4	5
D 子どもの養育について困ったときに参考になるアドバイスが得られる	1	2	3	4	5
Eトラブルや相談というほどではないが、ちょっとした悩みを話せる	1	2	3	4	5
F 担当者と連絡がつきやすい	1	2	3	4	5
G 緊急の際には、いつでも連絡できる	1	2	3	4	5
H 一緒にチームになって養育してくれる	1	2	3	4	5
I 学校や関係先など、地域にも里親理解を広めようとしている	1	2	3	4	5
J 委託された子どもや実子が、担当者に相談できる関係にある	1	2	3	4	5
K 実子への配慮がある	1	2	3	4	5
L 委託解除後の喪失感などについて、支援や配慮がある	1	2	3	4	5

問11. フォスタリング機関について、ご意見やお考えがあれば教えてください。

問12. 養育上の課題や難しさ感じた場合には、早い段階で相談し、助言に耳を傾けていますか？

(○は1つだけ)

- |           |               |          |
|-----------|---------------|----------|
| 1. とても思う  | 2. そう思う       |          |
| 3. そう思わない | 4. まったくそう思わない | 5. 経験がない |

問13. 子どもへの不適切なかかわり方について具体的に説明を受けましたか？(○は1つだけ)

- |        |           |                 |
|--------|-----------|-----------------|
| 1. 受けた | 2. 受けていない | 3. わからない・覚えていない |
|--------|-----------|-----------------|





## 里親家庭で生活するみなさんへ アンケートご協力をお願い

このアンケートは、里親家庭で生活するみなさんを支援する団体（「〇〇〇〇」と言いますが、ここから「〇〇」と書きます。）がよりよくなるように、みなさんからのご意見をお聞きするものです。

みなさんが答えてくれた内容は、〇〇がよりよい活動をするにはどうしたらいいか、どんな課題があるかを考えるために使わせてもらいます。

アンケートは、あなたの名前を書く必要はありません。また、アンケートを里親さんや〇〇のひとがそのまま見ることはありません。アンケートの結果は、だれが書いたかわからないようにして使います。

あなたがこれまでに経験したことやあなたの素直な気持ちを聞かせてください。

### <アンケートの答え方>

- ・アンケートの質問は、全部で17問あります。
  - ・あなた自身のことや、あなたの考え・気持ちに一番近いものに、○をつけてください。
  - ・答えたくない質問やわからないことは答えなくて良いです。名前も書く必要はありません。
- ※自分で答えることが難しい場合は、里親さんや〇〇、児童相談所のひとに手伝ってもらって答えることもできます（周りの大人に声をかけてください）。

アンケートを書き終えたら、一緒に渡した封筒に入れて、テープを貼って里親さんに出してください。

インターネットで答えたい場合は、下のQRコードをスマートフォンから読み取るか、URLを入力して回答してください。ご協力よろしくお願いいたします。



【URL】 <https://>

アンケート担当者名

フォスタリング機関（〇〇）のひとについて教えてください。

※フォスタリング機関のひとが分からない場合は、里親さんに聞いてから教えてください。

問1. あなたは、フォスタリング機関のひとは話しやすい大人だと思いますか？

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. まったくそう思わない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

問2. あなたは、フォスタリング機関のひとと最近1年間に話をしましたか？

1. 話していない 2. 話した 3. わからない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

フォスタリング機関または児童相談所について教えてください。

問3. あなたは、あなたの今の状況について説明を受けましたか？

1. 説明を受けた 2. 説明を受けていない 3. わからない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

問4. あなたは、あなたのこれからのことについて説明を受けましたか？

1. 説明を受けた 2. 説明を受けていない 3. わからない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

問5. あなたは、あなたの実親のことについて話し合うことはできていますか？

1. できている 2. できていない 3. わからない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

あなたの今の生活や経験について教えてください。

問6. あなたは、里親家庭は安心して生活ができると思いますか？

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. まったくそう思わない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

問7. 里親さんは、あなたの意見や気持ちをよく聴いてくれると思いますか？

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. まったくそう思わない

あなたの意見や考えがあれば、自由に書いてください：

問8. あなたは、里親家庭での生活について満足していますか？

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満 4. 不満

あなたの意見や考えがある場合は、自由に書いてください：

問9. あなたの健康状態はどうですか？

1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

あなたの意見や考えがある場合は、自由に書いてください：

問10. あなたは、「子どもの権利」について、聞いたことはありますか？

1. 聞いたことがある 2. 聞いたことはない 3. わからない

あなたの意見や考えがある場合は、自由に書いてください：

問11. 問10で「1. 聞いたことがある」と答えた人にお聞きします。「子どもの権利」は、どんなものかわかりますか？

1. よくわかる 2. わかる 3. わからない 4. まったくわからない

問 12. 今の里親家庭の人や身近な大人は、あなたを叩いたり蹴ったり、乱暴な言葉を使ったりしないで接してくれますか？

1. はい	2. いいえ	3. わからない
あなたの意見や考えがある場合は、自由に書いてください：		

問 13. あなたが今の里親家庭で「こまったな」「いやだな」と思ったときに、だれに相談すればいいか知っていますか？

1. 知っている	2. 知らない	3. わからない
あなたの意見や考えがある場合は、自由に書いてください：		

問 14. あなたには、信頼できる人や自分の気持ちを話しやすい大人がいますか？

1. いる	2. いない	3. わからない
あなたの意見や考えがある場合は、自由に書いてください：		

問 15. フォスタリング機関や今の生活について、意見や希望があれば書いてください。

--

あなた自身について教えてください。

問 16. あなたの性別を教えてください。

1. 男	2. 女	3. その他 ( )	4. 答えたくない
------	------	------------	-----------

問 17. あなたの学年を教えてください。

1. 小学1～6年生	2. 中学1～3年生	3. 高校1～3年生	4. その他
------------	------------	------------	--------

ご協力ありがとうございました。

## IV. 参考資料

### 1. 自己評価入力シート

評価基準	主管		備考
	当 機 関	見 相	
<b>I フォスタリング機関の運営・体制</b>			
<b>1 リーダーシップ及びコミットメント</b> フォスタリング機関のリーダーは、リーダーシップを発揮し、コミットメントを果たしているか <input type="checkbox"/> フォスタリング機関のリーダーの責任と権限を明確にしている <input type="checkbox"/> 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組みを行っている <input type="checkbox"/> リーダーシップを発揮して、コミットメントを果たせるように業務を実施している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>2 人材の確保・育成</b> 人材の確保と育成に関する計画を立て、実行しているか <input type="checkbox"/> 必要な人材の採用と育成が行われている <input type="checkbox"/> フォスタリング機関の業務の質の向上、効率化のための取組みを実施している <input type="checkbox"/> 職員に必要な専門性が確保されるための取組みを行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>3 職場環境</b> 職員が働きやすい環境づくりに取組んでいるか <input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい環境にするための取組みを行っている <input type="checkbox"/> 年次休暇の取得状況や労働時間が適正である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>4 情報管理</b> 情報の取り扱いが適切に行われているか <input type="checkbox"/> 個人情報の保護・管理が適切に実施されている <input type="checkbox"/> 個人情報管理の責任者が明確である	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>5 法令遵守</b> 職員は法令等を理解し、遵守しているか <input type="checkbox"/> 職員は遵守すべき法令等を理解している <input type="checkbox"/> 業務に従事する者又は従事していた者は、守秘義務を遵守している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
◆ I について自己評価をしてみたの気づきや課題等についてのコメント			

評価基準	主管		備考
	当機関	児相	
<b>II 児童相談所とフォスタリング機関のパートナーシップ</b>			
<b>6 支援の連続性</b> <b>フォスタリング業務は、一貫した体制の下に、支援の連続性を持って提供されているか</b> <input type="checkbox"/> フォスタリング業務は、一貫した責任体制の下に、包括的に実施されている <input type="checkbox"/> 子どもや里親への支援は連続性を持って提供されている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>7 協働関係</b> <b>児童相談所とフォスタリング機関は、適切な協働関係を築いているか</b> <input type="checkbox"/> 両機関は、機関ごとの役割を明確化し、それぞれの責任を理解している <input type="checkbox"/> 両機関の職員は、協働への意欲を持ち、コミットメントを持って取組んでいる <input type="checkbox"/> 両機関は、相互の信頼があり、お互いの職員への配慮をしている <input type="checkbox"/> 両機関は、相手を理解し、パートナーシップを発展させている <input type="checkbox"/> 両機関は、互いに成長し、貢献し合えるという認識を持っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>8 協働のプロセス</b> <b>児童相談所とフォスタリング機関は、よりよい協働のために必要なプロセスを行っているか</b> <input type="checkbox"/> 両機関は、継続的にコミュニケーションをとり、意思疎通を図っている <input type="checkbox"/> 両機関は、業務の目的を明確にし、適切な目標（具体的な成果目標を含む）を合意している <input type="checkbox"/> 両機関は、ニーズを分析し、関係者と協議して計画を立てている <input type="checkbox"/> 両機関は、プロセスや手順を確立し、継続的に見直している <input type="checkbox"/> 両機関は、情報共有に関するルールを定め、正確な情報を共有している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>9 協働の資源</b> <b>児童相談所とフォスタリング機関は、協働するための資源を適切に確保しているか</b> <input type="checkbox"/> 両機関は、フォスタリング業務に対応する専任職員の配置やチームの設置等、適切な体制となっている <input type="checkbox"/> 両機関は、業務内容や地域の規模、担当ケース数等に対し、適切な職員数が配置されている <input type="checkbox"/> 両機関は、フォスタリング業務を行うための必要な資金を確保している <input type="checkbox"/> 両機関は、事業の立ち上げや協働の実施のために必要な時間が不足していない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>10 児童相談所の苦情の受付</b> <b>児童相談所は、苦情解決の仕組みをつくり、周知・機能させているか</b> <input type="checkbox"/> 児童相談所は、苦情解決の仕組みを確立し、機能させている <input type="checkbox"/> 児童相談所は、苦情の受付窓口を子どもや里親等に定期的に周知している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※児相の評価必須
<b>◆IIについて自己評価をしてみたの気づきや課題等についてのコメント</b>			

評価基準	主管		備考
	当 機 関	見 相	
<b>Ⅲ フォスタリング業務の効果的な実施</b>			
<b>i 里親のリクルート及びアセスメント</b>			
<b>11 里親リクルートのための現状分析と戦略立案</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>里親リクルートの課題などについて分析を行い、戦略的なアプローチを実行しているか</b> <input type="checkbox"/> 里親希望者の傾向や里親を希望する理由、認知方法、問い合わせ件数等を情報収集している <input type="checkbox"/> 収集した情報をもとに、里親をリクルートするための現状分析を行っている <input type="checkbox"/> ターゲットの特徴に合わせた戦略的な広報アプローチを実行している <small>(具体的な取組例は、ポスターの掲示、チラシ・リーフレットの配布、ポスティング、車内広告の実施、テレビ・ラジオにおける番組や広告の放映、インターネット（ホームページ、SNSなど）を活用した情報発信、市政だより及び回覧板の活用、雑誌・フリーペーパーへの記事掲載、街の身近な場所で気軽に説明を聞くことができる場の設定、里親または里親経験者からの口コミなどである。特に、里親との出会いや口コミは効果的とされる。)</small>			
<b>12 里親リクルートのための効果的な情報発信</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの目標を立て、効果的な情報発信と見直しを行っているか</b> <input type="checkbox"/> 問い合わせ件数や研修参加数、登録件数などの具体的な目標を立てている <input type="checkbox"/> 取組みの効果を測定し、進捗の確認や見直しを行っている <input type="checkbox"/> 里親制度についての情報発信が問い合わせの増加や里親登録につながっている			
<b>13 問い合わせへの対応とガイダンス</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>問い合わせに迅速に対応し、里親制度の意義やサポート体制などを丁寧にガイダンスしているか</b> <input type="checkbox"/> 気軽に問い合わせできるようにしている <input type="checkbox"/> 関心を持っていただいた市民からの問い合わせに迅速に対応している <input type="checkbox"/> 養育里親への経済的なサポートや支援体制など不安や負担感を軽減できるような説明をしている <input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズや行動特性、里親の役割などを丁寧にガイダンスしている <input type="checkbox"/> 実子がいる家庭に対しては、実子との関係などの不安を解消する工夫をしている			
<b>14 里親希望者のアセスメント</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>里親希望者に対して面接・研修や訪問調査を行い、適性を丁寧にアセスメントしているか</b> <input type="checkbox"/> 里親を希望する理由を丁寧に確認し、里親になる動機を明確にしている <input type="checkbox"/> 家庭訪問調査を必ず行い、近隣の環境や居住環境の把握と、同居家族の意向を確認している <input type="checkbox"/> 面接や家庭訪問は、調査者を含め複数の専門職で行い、児童相談所も直接確認している <input type="checkbox"/> 里親としての適性は、子どもの委託をイメージした上で確認し、児童相談所と理解を共有している <input type="checkbox"/> 実習先での里親希望者の評価（強みや弱み）を確認し、アセスメントに活かしている <input type="checkbox"/> 子どもを迎えたことによって生じた変化を家族で助け合って乗り越えられるかを見極めている <input type="checkbox"/> 里親としての適性が不十分な場合には、希望者に結果をフィードバックし、今後の対応を伝えている			
<b>ii 里親に対する研修</b>			
<b>15 登録前、登録後及び委託後における里親に対する研修</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>研修で習得した内容や反省点を面接等で言語化し、里親制度に対する理解を深めているか</b> <input type="checkbox"/> 里親希望者に対する研修は、希望者を長期間待たせることなく行われている <input type="checkbox"/> 登録前研修後は、習得した内容や反省点について面接等で言語化し、里親制度への理解を確認している <input type="checkbox"/> 登録前研修のステップごとに、里親希望者のニーズや意向を把握している <input type="checkbox"/> 演習を組み入れ、気づき及び疑問等について里親間で話し合い、理解を深めるようにしている <input type="checkbox"/> 里親登録後の研修では、里親のスキルアップを図り、里親の強みや課題を捉えている <input type="checkbox"/> 研修では、里親の役割を子どもの視点で捉え、実親との協働が子どもの健やかな成長に寄与することを伝えている <input type="checkbox"/> 研修内容は、必要なスキルや知識を得るために十分な内容であり、適時改善を図っている <small>(研修においては、養育技術や、真実告知等の里親養育を行う際に生じる課題だけではなく、子どもの権利保障、里親養育の最低基準及び被措置児童等虐待の防止等についても扱っている)</small> <input type="checkbox"/> 子どもの委託後は、ニーズに沿った実践的な研修を実施し、里親の相互交流の機会も設けている			

<b>iii 里親の活動を促進する取組み</b>			
<b>16 登録後の里親に活動してもらう取組み</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>登録後の里親に活動してもらう取組みの実施や状況把握をしているか</b>			
<input type="checkbox"/> 登録後の里親が活動したり参加したりする機会を設けている			
<input type="checkbox"/> 登録後の里親が委託の準備やモチベーションの維持・向上につながる取組みを実施している			
<input type="checkbox"/> 登録後の里親の研修受講や活動状況を把握している			
<b>17 未委託里親への取組み</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>未委託里親への取組みの実施や家庭状況の確認をしているか</b>			
<input type="checkbox"/> 未委託里親に対するトレーニングや研修等を実施し、養育力の向上を図っている			
<input type="checkbox"/> 未委託里親の家庭状況を定期的に確認している			
<b>iv 子どもと里親のマッチング</b>			
<b>18 マッチングの検討</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>関係機関がアセスメント情報を持ち寄って十分に話し合い、適切なマッチングを検討しているか</b>			
<input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、リクルートから研修までに把握した里親家庭に関する情報を児童相談所に十分に提供している			
<input type="checkbox"/> 施設入所または一時保護の場合には、当該児童福祉施設におけるアセスメント情報等を踏まえている			
<input type="checkbox"/> 子ども、実親、里親に対して十分な情報提供を行うとともに、子ども・里親の熟慮期間を確保している			
<input type="checkbox"/> 子どもと里親家庭の状況を踏まえたチーム養育体制の支援計画等を踏まえてマッチングしている			
<b>19 児童相談所による措置決定</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>児童相談所は、包括的にアセスメントを行い、適切に措置決定しているか</b>			
<input type="checkbox"/> 児童相談所は、子どもの行動特性や子ども及び実親のニーズ、家庭復帰についての見通しなどを包括的にアセスメントしている			
<input type="checkbox"/> 措置決定の際には、年齢等に合わせた適切な方法により、予め子どもの意見を聴取している			
<input type="checkbox"/> 児童相談所は、関係機関によるアセスメントを十分踏まえた上で里親委託措置を決定している			
<b>20 委託前交流</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>子どもと里親の関係づくりを段階的に行い、子どもが安心して生活できるようにしているか</b>			
<input type="checkbox"/> 里親に対し、子どもに関する情報や養育上の留意点を十分に説明している			
<input type="checkbox"/> 里親と同居家族の受け止めと意向を丁寧に確認し、不安がある場合の整理や地域資源の調整をしている			
<input type="checkbox"/> 子どもと里親の関係づくりは、段階的に行われている			
<input type="checkbox"/> 交流中の子どもと里親家庭の様子、関係性の変化等を把握している			
<input type="checkbox"/> 子どもの気持ちを大切にし、安心して里親家庭で生活できるよう必要に応じた支援を行っている			
<input type="checkbox"/> 一時保護委託や実家庭からの直接委託となる場合は、より慎重に委託後の支援を行っている			
<b>◆IIIについて自己評価をしてみたの気づきや課題等についてのコメント</b>			

※児相の評価必須



評価基準	主管		備考
	当 機 関	見 相	
<b>IV チーム養育の充実</b>			
<b>i 里親とフォスタリング機関の関係性及びチーム養育</b>			
<b>21 里親とフォスタリング機関の関係性</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションを図り、信頼関係が築かれているか</b> <input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は十分なコミュニケーションをとっている <input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は双方向の信頼関係を構築している <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、里親が日常的に相談しやすい環境を作っているようにしている <input type="checkbox"/> 里親は、養育上の課題や難しさを感じた場合には、早い段階でフォスタリング機関に相談し、助言に耳を傾けている			
<b>22 チーム養育と支援ネットワーク</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>里親とフォスタリング機関、児童相談所はチーム養育の意識を持ち、子どもに重層的な支援を行っているか</b> <input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関、児童相談所は、チーム養育を協働して行うという意識を持っている <input type="checkbox"/> 養育チームは、ミーティングなどを通じて密に連携し、信頼関係を構築している <input type="checkbox"/> 里親とフォスタリング機関は、養育で必要となる社会資源の利用について話し合っている <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、子どものニーズに応じて、里親養育を理解し支援する地域ネットワーク（「応援チーム」）を構築するよう努めている <small>（応援チーム構成の機関例：市区町村（主に家庭福祉主管課や母子）、保健センター、乳児院や児童養護施設（里親支援専門相談員）等、教育委員会、学校、保育所・幼稚園・認定こども園等、医療機関、児童家庭支援センター、里親会、民生委員、児童委員 等）</small>			
<b>ii 里親養育における支援の質</b>			
<b>23 里親養育のサポート</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>フォスタリング機関は里親養育のサポートを適切に行っているか</b> <input type="checkbox"/> 家庭訪問や電話等を通じて、子どもの養育状況や里親家庭の状況を把握している <input type="checkbox"/> 里親の疑問や悩み、意見や苦情、養育困難などの訴えを聴き、ガイダンスとサポートをしている <input type="checkbox"/> 定期的な家庭訪問の目的や内容・頻度等を明確にし、委託直後や養育が不安定になった場合などには頻度高く訪問している <small>（里親委託ガイドラインでは、訪問頻度は「委託直後の2か月間は2週に1回程度、委託の2年後までは毎月ないし2か月に1回程度、その後は概ね年2回程度訪問する。」とされている）</small> <input type="checkbox"/> 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応できるようにサポートしている <input type="checkbox"/> 実親との面会交流時や措置解除前後は、子ども及び里親への心理的サポートを行っている			
<b>24 里親養育に関するスーパービジョン</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>より質の高い養育を実現するためのスーパービジョンが行われているか</b> <input type="checkbox"/> 里親養育の様々な場面において、里親の適切な対応を支持、承認し、日々の養育の営みを尊重している <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の発生予防の視点を含めた、養育水準のチェックとスキル向上に向けた助言や指導をしている			
<b>25 里親養育の状況に応じた支援のコーディネート</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>子どもが様々な社会資源を活用できるようコーディネートし、その効果やニーズの充足を確認しているか</b> <input type="checkbox"/> 子どもや里親が地域で孤立しないように、里親養育を支援する支援体制を地域に構築している <input type="checkbox"/> レスパイト・ケアの利用を勧奨・調整している <input type="checkbox"/> 子どもや里親と関係機関との間で摩擦や葛藤が生じた場合には、関係調整等の必要な支援を行っている			
<b>26 里親同士の関係構築支援</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>里親同士が横のつながりを築けるようにサポートされているか</b> <input type="checkbox"/> 里親が話し合いや情報交換できる機会等を定期的に設けている <input type="checkbox"/> 里親が里親同士の相互交流に参加しやすいように工夫している <input type="checkbox"/> その他里親同士の関係構築が促進される独自の取組みを行っている <small>（独自の取組みの具体的な内容：）</small>			

<p><b>27 子どもと実親との面会交流</b></p> <p><b>面会交流については、子どもと里親に対して丁寧に説明し、可能な限り子どもの意見を尊重しているか</b></p> <p><input type="checkbox"/> 実親との面会交流の具体的な方法や養育状況の報告、親子関係再構築支援計画については、可能な限り子どもと実親の参加の下、里親及び担当児童福祉司と協議、調整のうえ、作成している</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭復帰のための短期集中的な交流の場合は、子どもと里親家庭への説明を丁寧にいき、疑問や不安にその都度対応している</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的な面会交流の場合は、交流前後の子どもと里親家庭の状況を把握し、安定が図られるよう適切な対応を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 面会交流に制限が必要な場合やリスクが高いと判断した場合は、必要に応じて調整を行っている</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<p><b>28 里親家庭での養育が不安定になった場合の対応</b></p> <p><b>里親家庭での養育が不安定になった場合は必要な対応をしているか</b></p> <p><input type="checkbox"/> 養育が不安定になった場合は、早急に状況を把握している</p> <p><input type="checkbox"/> 問題の要因に応じて、児童相談所と情報を共有し、迅速に対応方針を検討している</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<p><b>29 被措置児童等虐待の防止と早期発見</b></p> <p><b>里親家庭での子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいるか</b></p> <p><input type="checkbox"/> 里親に対して、不適切なかかわりの具体的な例を示し、被措置児童等虐待の防止に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識・方法を学習する機会を設け、子ども自らが訴えることができるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じた場合に、迅速かつ適切な対応ができる体制が整備されている</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※児相の評価必須
<p><b>30 里親委託が不調となった場合の対応</b></p> <p><b>里親委託が不調となった場合は事情に応じて丁寧に説明を行い、子どもの意見や気持ちに配慮しているか</b></p> <p><input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、里親委託が不調となった場合に十分なアセスメントをしている</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもに対して、事情に応じて丁寧かつ十分な説明を行って、子どもの意見を聴き、子どもの気持ちに配慮している</p> <p><input type="checkbox"/> 里親委託が不調となった場合は、次の養育の場への移行を丁寧に支援し、子どもの心理的ダメージに留意し、具体的なケアをしている</p> <p><input type="checkbox"/> 里親と時機をみて、時間をかけて振り返り、整理することによって、養育チーム全体として受け止められるようにしている</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<p><b>31 委託解除時における里親の喪失感への配慮</b></p> <p><b>里親の喪失感へのサポートを行うとともに、解除後の子どもと里親との関わりをアセスメントしているか</b></p> <p><input type="checkbox"/> 委託解除前後の里親自身の感情の問題や受けられるサポートについて、研修の場等で予め触れている</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所が中心となって、子どもが里親家庭での経験を振り返り、可能な範囲で里親家庭とのつながりを保ち続けるよう努めている</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの今後の生活にとって、里親とどのような関わりを持つのが良いのかをアセスメントしている</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<p><b>◆IVについて自己評価をしてみたの気づきや課題等についてのコメント</b></p>			

評価基準	主管		備考
	当 機 関	児 相	
<b>V 里親養育のもとで育つ子どもの経験</b>			
<b>i 子どもの権利擁護と最善の利益の優先</b>			
<b>32 子どもの権利についての理解促進</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※児相の評価必須
<b>子どもに対して、権利についてわかりやすく説明し支援しているか</b> <input type="checkbox"/> 子どもの権利ノートを配布し、子どもの権利について分かりやすく伝えている <input type="checkbox"/> 里親は、子どもの権利を理解し、日常生活の中で子どもの権利をサポートしている <input type="checkbox"/> 里親と支援機関は、子どもの年齢や発達に応じた目標を立て、説明方法を工夫している			
<b>33 子どもへの説明と意見聴取</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>援助過程において、子どもが理解できるような説明と意見聴取が適切に行われているか</b> <input type="checkbox"/> 援助方針や見通しについて、子どもに分かりやすく説明している <input type="checkbox"/> 子どもに対して面接の目的を明らかにし、子どもが話しやすい環境で意見を聴いている <input type="checkbox"/> 定期的に子どもの意向を把握し、子どもの意見が支援内容等に反映されている			
<b>34 子どもの意見表明支援</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>子どもの権利を擁護するために、子どもの意見形成や意見・意向表明を支援しているか</b> <input type="checkbox"/> 里親は、日常生活の中で子どもの意見形成や意見・意向表明をサポートしている <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、日々の支援の中で子どもの意見形成や意見・意向表明をサポートしている <input type="checkbox"/> 子どもがフォスタリング機関以外の意見・意向表明の仕組みを利用できるように説明や支援を行っている <input type="checkbox"/> 子どもが子どもアドボケートの仕組みを活用したケースがある <small>(子どもの権利条約に規定された権利を擁護するために、里親家庭や施設等で生活する子どもたちの意見・意向表明を支援する子どもアドボケートの設置が進められている。)</small>			
<b>35 子どもの生い立ちの振り返りと、記録の保管・開示</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>子どもの発達や意向に応じて、自分自身の生い立ちを振り返る取組みを行っているか</b> <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの記録を収集・整理し、適切に保管している <input type="checkbox"/> 子どもの発達に応じて、生い立ちの振り返りの計画を立てている <input type="checkbox"/> 伝え方や内容について支援者間で協議し、共有している <input type="checkbox"/> 委託解除時には、子どもに対して、過去に受けた決定を知ることができること及び文書等の保存期間を適切に説明している			
<b>36 子どもの権利侵害の防止</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※児相の評価必須
<b>子どもへの不適切な関わりに対する予防や対策が適切に行われているか</b> <input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組みを行っている <input type="checkbox"/> 子どもが権利侵害にあった場合の届出の仕組みを子どもに分かりやすく説明している			
<b>ii 子どもの基本的な生活</b>			
<b>37 子どものウェルビーイング</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>子どもは、日常の中で健やかな成長・発達が図られるような生活を送っているか</b> <input type="checkbox"/> 子どもは、日常的に十分な衣食住の生活を送れるよう養育されている <input type="checkbox"/> 子どもは、心身ともに健康的な生活ができるよう健康を管理され、必要な医療を受けられるようになっている <input type="checkbox"/> 子どもは、基本的な生活習慣（起床・就寝・遊び・勉強・家事）を身につけられるよう支援されている <input type="checkbox"/> 子どもは、余暇に運動したり芸術・文化に触れたりする機会を提供されている <input type="checkbox"/> 子どもは、年に数回は文化的活動（映画・美術館・博物館等）を行う機会を提供されている <input type="checkbox"/> 学習意欲を十分に引き出せるよう学習環境が整えられている <input type="checkbox"/> 最低限必要な家庭の決まりは、子どもに説明し、意見を聞いた上で、合意するようにしている			

<b>38 性に関する教育</b> <b>子どもに対して、性についての正しい知識を教え、子どもの疑問や不安に応えるようにしているか</b> <input type="checkbox"/> 里親は性に関することをタブー視せず、子どもの疑問や不安に応えるように努めている <input type="checkbox"/> 子どもの年齢・発達状況に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設けている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>39 非常時・災害時の安全の確保</b> <b>非常時・災害時に備えて、子どもの安全が確保されるように努めているか</b> <input type="checkbox"/> 非常時の連絡方法や安全確保、避難場所について里親家庭で確認し、子どもにも説明している <input type="checkbox"/> 食料や備品類など災害時の備蓄等を行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>40 子どもの人格の尊重</b> <b>子どもは、人格が尊重され、主体的な自己決定を支援されているか</b> <input type="checkbox"/> 里親は、子どもが自分の好みや要望を表現しやすい雰囲気や関係性づくりを心がけている <input type="checkbox"/> 里親は、子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動できるようにしている <input type="checkbox"/> フォスタリング機関は、子どもの選択を尊重し、自発的な活動ができるように支援するよう努めている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>41 子どもへの支援</b> <b>子どもは、ニーズに応じて、必要な支援を受けられるようになっているか</b> <input type="checkbox"/> 子どもは個別のニーズに応じてコーディネートされた支援を受けられるようになっている <input type="checkbox"/> 養育方針は、子どもにとって望ましいものとなるよう定期的に見直している <input type="checkbox"/> 子どもの成長を養育チーム全体で確認するとともに、子どもを含めてその成長を評価している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>42 子どもへのかかわりと関係性</b> <b>里親家庭、フォスタリング機関、児童相談所等の子どもへのかかわりと関係性はどうか</b> <input type="checkbox"/> 里親家庭（養育者、実子等）の子どもへのかかわりと関係性は適切である <input type="checkbox"/> フォスタリング機関の職員の子どものかかわりと関係性は適切である <input type="checkbox"/> 児童相談所の職員の子どものかかわりと関係性は適切である <input type="checkbox"/> 養育チームで役割分担をし、子どもの疑問や悩み、訴えに耳を傾けている <input type="checkbox"/> 子ども自身が問題を抱えた時の相談先をわかるようにしている <input type="checkbox"/> 実子がフォスタリング機関または児童相談所の職員へ相談できる機会を作っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>43 里親家庭で育つ子ども同士の関係構築支援</b> <b>里親家庭で育つ子どもは、横のつながりが築けるようになっているか</b> <input type="checkbox"/> 子ども同士が遊び等を通じて相互交流できる機会を定期的に設けている <input type="checkbox"/> 乳幼児や中高生の子どものも参加しやすいように工夫している <input type="checkbox"/> 実子が参加したり実子同士が交流したりするための配慮がされている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<b>44 自立支援計画</b> <b>自立支援計画は、適切に見直しが行われ、子どもがその内容を理解しているか</b> <input type="checkbox"/> 自立支援計画は、子どもの意見が尊重され、子どもが理解している <input type="checkbox"/> 自立支援計画は、可能な限り子どもと実親の参加の下、担当児童福祉司及び里親とともに作成・共有し、進捗を把握している <input type="checkbox"/> 委託解除前から自立に向けた支援が行われている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※児相の評価必須
<b>◆Vについて自己評価をしてみたの気づきや課題等についてのコメント</b>  			

評価基準	主管		備考
	当機関	児相	
付加評価			
独自の取組みや独自事業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
取組み名称や実施の経緯、実施内容、工夫			

## 2. 子どもへのインタビュー実施時の説明資料（例）

### グループインタビューについて

#### 1 私たちは、

〇〇〇〇で、フォスタリング機関（子どもや里親さんの支援を行う組織）の評価方法について調査や検討をしているチームです。

私たちは、現在「●●●●」の良いところや改善した方がよいことなどについて、知りたいと思っています。

#### 2 私たちが話を聞きたい理由は、

●●●●に、何が良い点で、今後何を変えるといいかを伝えたいからです。

私たちは、支援に関するあなたの経験やあなたの考えはとても重要だと考えています。

私たちは、あなたが話してくれたことを真剣に受け止めたいと思っています。

私たちは、あなたやあなたの家族について調べるわけではありません。

#### 3 インタビューは、

協力してくれる子どもたちにグループになってもらい、実施します。

インタビューでは、以下のことを聞く可能性があります。

- ●●●●の方とのかかわりについて
- ●●●●（または児童相談所）から受けた説明や支援について
- 日常生活の中で満足していることや困りごとについて
- 支援についての意見や希望について

以下のことを知っておいてください。

- あなたが私たちと話したくなければ、話さなくてもよいです。
- あなたが話したくないことは、話さなくてもよいです。
- いつでも好きなときにやめることができます。
- 私たちについて、質問することができます。

#### 4 インタビューのあとに私たちが行うことは、

あなたや他の方へのインタビューやアンケートをまとめ、私たちの気がついたことを●●●●に伝えるための報告書を作成します。この報告書は、公開する場合がありますが、あなたが特定されるようなことは一切書きません。私たちは、あなたが話してくれた内容についてメモや記録に残しますが、それを●●●●や児童相談所、里親さんにそのまま見せたり伝えたりすることはありません。報告書のポイントをまとめたものは、みなさんにもご報告いたします。

他にも心配なことや気になることがあれば、なんでも聞いてください。

ご協力よろしくお願いいたします。



## 第5章 参考文献

- ・ 相澤仁（編集代表）、渡邊守・長田淳子編『ネットワークによるフォスタリング』シリーズみんなで育てる家庭養護、里親・ファミリーホーム・養子縁組（2）、明石書店、2021年
- ・ 栄留里美『社会的養護児童のアドボカシー意見表明権の保障を目指して』明石書店、2015年
- ・ 上坂 美紀・中森千佳子(2020)「子どもの主観的 well-being における 「生活評価」指標の枠組みと指標の提案」『日本家政学会誌』(71)No.10, pp.631-647
- ・ 久保木匡介『現代イギリス教育改革と学校評価の研究－新自由主義国家における行政統制の分析』共栄書房、2019年
- ・ 才村純（2005）「児童福祉サービスにおける利用者保護の現状と課題--第三者評価と苦情処理システムをめぐって（特集 社会福祉実践の評価と記録--科学化を目指して）」『社会福祉研究』（92）, pp.63-68
- ・ 社会福祉法人全国社会福祉協議会「社会的養護施設第三者評価事業 評価基準について」  
<http://shakyo-hyouka.net/social4/>（2023年3月15日参照）
- ・ 津崎哲雄『英国の社会的養護の歴史－子どもの最善の利益を保障する理念・施策の現代化のために』明石ライブラリー(153)、明石書店、2013年、pp.107-108
- ・ 中村徹・杉山隆一・保育行財政研究会『保育所の第三者評価－どこが問題か』自治体研究社、2003年
- ・ 堀正嗣（2020）「子どもアドボカシーとは」『世界の児童と母性』（88）、pp.7-12
- ・ 堀正嗣・栄留里美『子どもソーシャルワークとアドボカシー実践』明石書店、2009年
- ・ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング（2019）「一時保護の第三者評価に関する研究『一時保護された子どもの生活・支援に関する第三者評価の手引き(案)平成31年3月』」
- ・ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング（2020）「児童相談所における第三者評価ガイドライン(案)令和2年3月」
- ・ ユネスコ編、浅井春夫・良香織・田代美江子・福田和子・渡辺大輔訳『国際セクシュアリティ教育ガイダンス【改訂版】－科学的根拠に基づいたアプローチ』、明石書店、2021年
- ・ 日本 WHO 協会「健康の定義」 <https://japan-who.or.jp/about/who->

- [what/identification-health/](#) (2023年3月15日参照)
- 外務省 (2019年4月) 「世界保健機関憲章 (全文)」  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000026609.pdf> (2023年3月15日参照)
  - Ivana La Valle, Di Hart and Lisa Holmes with Vânia S. Pinto (2019) *How do we know if children's social care services make a difference? Development of an outcomes framework*. Rees Centre, University of Oxford.  
<http://www.education.ox.ac.uk/wp-content/uploads/2019/07/CSCS-Outcomes-Framework-July-2019.pdf> (2023年3月15日参照)  
(日本語訳版: 「子どもの社会的養育サービスの差異を知るには? —成果枠組みの構築—」  
<https://waseda-ricsc.jp/content/uploads/2021/10/a72803539ffc2ed6bc037e6863d8bafa.pdf>)
  - Judy Sebba (2012) *Why do people become foster carers? An International Literature Review on the Motivation to Foster*. Rees Centre for Research in Fostering and Education, University of Oxford.  
<http://www.education.ox.ac.uk/wp-content/uploads/2019/06/Why-Do-People-Become-Foster-Carers-An-International-Literature-Review-on-the-Motivation-to-Foster.pdf> (2023年3月15日参照)  
(日本語訳版: 「なぜ人々は里親になるのか?里親として子どもを養育するための動機づけに関する国際文献レビュー」  
<https://waseda-ricsc.jp/content/uploads/2021/10/f31f22f144970b3b7406cbb1a54e7f04.pdf>)
  - Mary Atkinson, Megan Jones and Emily Lamont (2007) *Multi-agency working and its implications for practice: A review of the literature*. CfBT Education Trust.  
<https://www.nfer.ac.uk/media/2001/mad01.pdf> (2023年3月15日参照)





---

早稲田大学大学院総合研究機構  
社会的養育研究所

フォスタリング機関の評価のあり方に関する調査研究 報告書

2023（令和5）年3月

---



Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION